



発行 令和8年3月
 横浜市旭区役所・社会福祉法人 横浜市旭区社会福祉協議会・旭区内地域ケアプラザ
 地区別計画策定・推進組織



きらっとあさひプラン

2026年度～2030年度 第5期旭区地域福祉保健計画

地域で支えあい 安心して自分らしく暮らせるまち
 旭区をつくろう

ご挨拶



旭区長 榎藤 由紀子

ゆるやかにつながり 安心して
自分らしく暮らせるまちを目指して

安心して自分らしく暮らせるまちづくりの指針となる「第5期きらっとあさひプラン（第5期旭区地域福祉保健計画）」がまとまりました。

策定にあたり活発なご議論をいただいた地域福祉保健推進会議・策定検討部会の皆様、多くのご意見をお寄せいただいた区民の皆様、ジュニアボランティア及び関係団体・企業の皆様に、心より感謝申し上げます。

第5期きらっとあさひプランは、4期20年にわたる取組を大切にしながら、区民の皆様お一人おひとりに自分事として取り組んでいただきたいこと、地域の皆様による取組に加えて、区・区社会福祉協議会・地域ケアプラザといった支援機関が推進する取組をお示ししています。

今後も本プランの推進を通して、区民の皆様の暮らしをお支えしてまいりますので、引き続きのご支援ご協力をお願い申し上げます。



社会福祉法人 横浜市旭区社会福祉協議会会長 渡邊 多喜男

皆様の声に耳を傾け
互いに支えあう「地域共生社会」の実現

旭区社会福祉協議会では、誰もが安心して暮らせる地域づくりを目指し、きらっとあさひプランの様々な取組を推進しているところでございます。

昨今では、高齢化や子育て、障害、生活困窮など地域が抱える課題はますます多様化・複雑化しています。

さらに、地域の現場では、担い手の高齢化や人手不足といった深刻な課題も顕在化しており、地域住民一人ひとりが主体となり、互いに支えあい助けあう「地域共生社会」の実現が、これまで以上に求められています。

本計画は、地域の皆様と共に、地域の現状や課題を共有し、解決に向けて協働するための大切な道しるべです。私たち社会福祉協議会といたしましても、第4期計画の意図やコロナ禍の教訓も活かしつつ、一層地域の皆様の声に耳を傾け、誰もが自分らしく安心して暮らせる旭区を目指して、引き続き取り組んでまいります。



旭区連合自治会町内会連絡協議会会長 林 重克

それぞれの立場から一つの目標に向かって

暮らしやすい地域を作っていくために第5期きらっとあさひプランが始まります。これまでの活動を基盤とし、様々な人が暮らしやすい地域づくりのため、自治会町内会や地区社協などがそれぞれの立場から支えあい、一つになって取り組んでいます。

暮らしやすい地域という目標に向かい、行政や関係団体、住民などがともに進んでいくためには、住民や関係団体の様々な意見を取り入れた、一つの指針が必要となります。

自治会町内会は、住民にとって最も身近な地域組織の一つとして、日々の活動を通じた地域の声の本計画にしっかりと込められた計画となっていると考えています。

今後の本計画の推進にあたり、関係団体や行政と連携・協働しながら取り組んでまいります。皆様のご理解、ご支援、ご協力を引き続きお願いいたします。

きらっとあさひプランとは

旭区地域福祉保健計画の愛称だよ
みんなで「安心して自分らしく暮らせるまち」を
つくるための目標や取組をまとめているよ



旭区
マスコットキャラクター
あさひくん



きらっとあさひプラン
マスコットキャラクター
あさちゃん

第5期 きらっとあさひプラン



第1章 きらっとあさひプランの概要

- (1) 地域福祉保健計画を取り巻く状況 1
- (2) 地域福祉保健計画の位置づけ 2
- (3) きらっとあさひプランとは 4

第2章 第5期計画策定の背景

- (1) 旭区の概要 5
- (2) 第4期計画の振り返り 7

第3章 第5期計画について

- (1) 策定経過 9
- (2) 計画の方向性 9
- (3) 構成 10

第4章 区全域計画

- (1) 区全域計画とは 11
- (2) 計画の主体 12

区全域計画柱1～3・コラム

- 柱1 日常的なつながりを通じた地域づくり 13
- 柱2 困ったときでも安心して暮らせる体制づくり 15
- 柱3 地域参加のための環境づくり 17
- コラム 柱ごとの取組紹介 19



第5章 地区別計画

- (1) 地区別計画とは 21
- (2) 地区の圏域 22
- (3) 地域の日々の活動と効果 23
- (4) 地区ごとの取組と話し合い 24

19地区の地区別計画

鶴ヶ峰地区 25	希望が丘南地区 45
白根地区 27	さちが丘地区 47
旭北地区 29	万騎が原地区 49
上白根地区 31	二俣川地区 51
今宿地区 33	二俣川ニュータウン地区 53
川井地区 35	旭中央地区 55
若葉台地区 37	旭南部地区 57
笹野台地区 39	左近山地区 59
希望が丘地区 41	市沢地区 61
希望が丘東地区 43	

第6章 計画の推進

- (1) 推進 63
- (2) 推進状況の確認 64

第7章 資料編

- (1) 第5期計画の策定経過 65
- (2) 地域福祉保健推進会議及び策定検討部会委員名簿 66
- (3) いただいたご意見 67
- (4) 福祉教材 69
- (5) 用語集 69
- (6) 区域データ 69

参考資料

- 福祉教材 71

1 地域福祉保健計画を取り巻く状況

1 地域社会の変化

近年、少子高齢化に伴う人口減少が進み、仕事や子育てにおけるライフスタイルの変化が見られます。その結果、家族や同僚、隣近所との人間関係が希薄になり、地域社会における人と人とのつながりがさらに弱まっています。(詳細は、5ページ「困ったときに助けあえる人と人とのつながりの弱まり」を参照)

令和5年版 厚生労働白書にもあるとおり、こうした現状から生活課題の複合化・複雑化、困ったときに相談できず問題が深刻化するケースが増加し、価値観の変化に伴う地域の担い手不足も進んでいます。

2 地域福祉保健計画とは

孤立せずにその人らしい生活を送ることができる、暮らしやすい地域社会をつくるためには、人と人がつながり、お互いを認めあうことが大切です。また、支える側・支えられる側という関係を超えて、お互いに支えあうことが求められます。

そのためには、一人ひとりが「自分が暮らしているまち」に関心を持ち、地域に関わるすべての人・組織が協力して、生活課題・地区の課題などの解決に向けて取り組むことが重要です。

地域の目指す姿を実現するために進めていく取組を、立場の異なるみんなで共有できるような明文化したものが、地域福祉保健計画です。



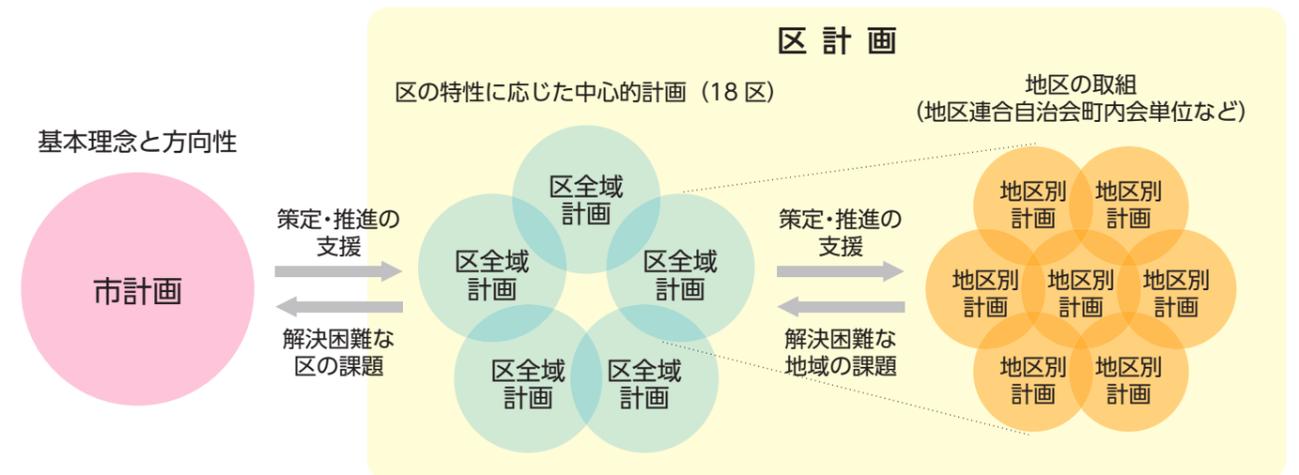
2 地域福祉保健計画の位置づけ

1 計画の法的な位置づけと期間

社会福祉法では、市町村は地域福祉の推進に関する事項を定める「市町村地域福祉計画」の策定が努力義務として規定されています。

横浜市では、福祉と保健の取組を一体的に進めるために、地域福祉保健計画としています。市全体の基本理念と方向性を示す「市計画」、18区ごとの特性に応じた「区全域計画」、より身近な地区の課題に対応する住民主体で策定・推進される「地区別計画」の3つの計画で構成されています。

図1 地域福祉保健計画の構成



第2期計画から、「区全域計画」に加え「地区別計画」の策定を開始しました。また、区社会福祉協議会（以下「区社協」という。）の「地域福祉活動計画」と統合し、一つの計画として一体的に進めています。

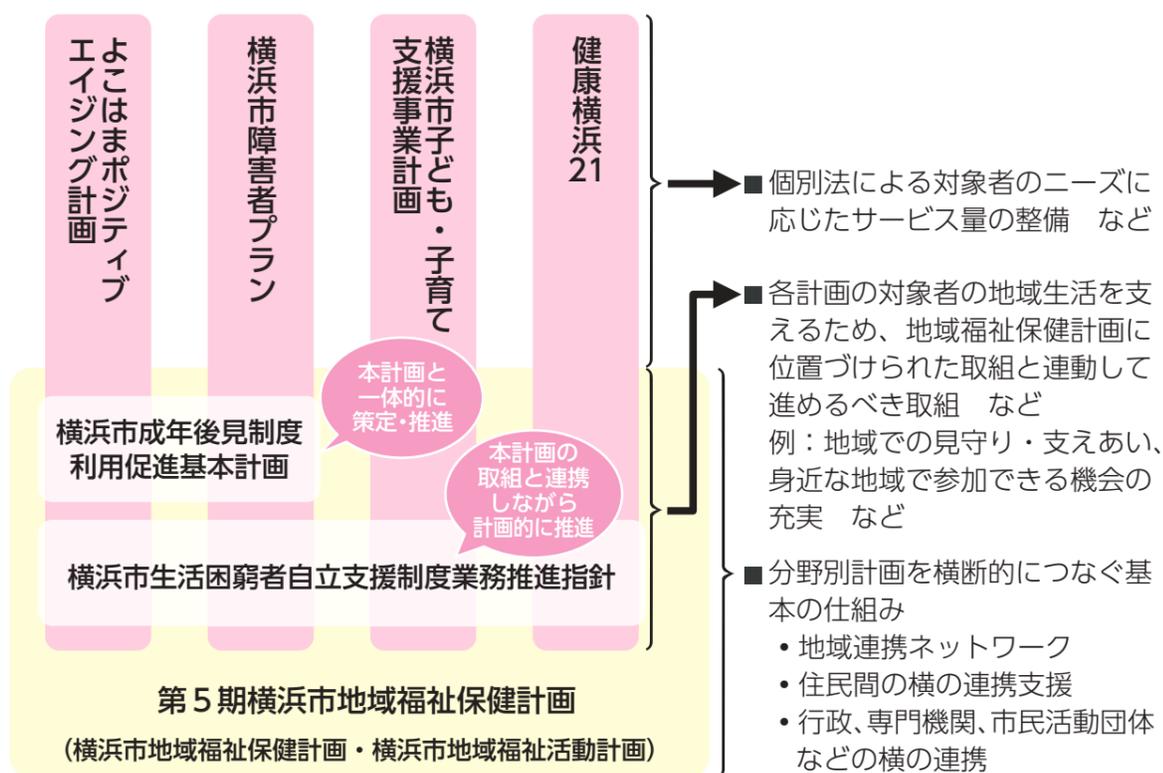
図2 区全域計画・地区別計画・地域福祉活動計画の計画期間と変遷

年度	2006年度～2010年度	2011年度～2015年度	2016年度～2020年度	2021年度～2025年度	2026年度～2030年度
区全域計画	第1期 きらっとあさひ プラン				
地区別計画		第2期 きらっとあさひ プラン	第3期 きらっとあさひ プラン	第4期 きらっとあさひ プラン	第5期 きらっとあさひ プラン
地域福祉活動計画	第3期 地域福祉 活動計画				

2 分野別計画との関係

地域福祉保健計画では、横浜市で策定する様々な分野別計画に共通する理念や方針及び取組推進の方向性を横断的に示し、区民の地域生活の充実を図ることを目指しています。また、地域に関わるすべての人・組織が取り組む内容を計画に示すことで、地域全体の取組の推進をとりまとめる役割を担います。

図3 主な福祉保健の分野別計画との関係



地域福祉保健計画に関する計画

- 横浜市自殺対策計画
- 横浜市子どもの貧困対策に関する計画
- 横浜市教育振興基本計画
- 横浜市再犯防止推進計画
- 横浜市人権施策基本指針

3 きらっとあさひプランとは

きらっとあさひプランは、旭区地域福祉保健計画の愛称です。区全域計画と19の地区別計画から構成されています。

きらっとあさひプランは、区民一人ひとり、地域組織・関係機関、支援機関（区役所・区社協・地域ケアプラザ）が、それぞれの取組を実践するとともに、三者が協働して推進していく計画です。

2006年度に開始した第1期からこれまでの計画期間で、様々な取組が進んできました。2026年度からは第5期きらっとあさひプラン（以下「第5期計画」という。）が始まります。

図4 計画期間ごとに見る取組の推進

2006年度～2010年度 第1期計画	2011年度～2015年度 第2期計画	2016年度～2020年度 第3期計画	2021年度～2025年度 第4期計画	2026年度～2030年度 第5期計画
ジュニアボランティア				
健康づくりの取組 ウォーキング、町ぐるみ健康づくり教室など		移動販売		
買い物支援		こども食堂・地域食堂		
サロン・住民同士の交流の場				
元気づくりステーション			地域でのゆるやかな見守り活動	
障害理解講座				
旭区認知症高齢者等 SOS ネットワークシステム				

1 旭区の概要

1 旭区の特徴

旭区は、1969年10月に保土ヶ谷区から分区し、誕生しました。人口は約24万人（18区中6番目）、面積は32.7km²（18区中4番目）です。ズーラシアや里山ガーデン、こども自然公園など大きな公園がある自然豊かな区です。また、地区により人口の年齢構成や交通の利便性などに違いがあることが特徴です。

2 旭区の現状と課題

● 困ったときに助けあえる人と人とのつながりの弱まり

旭区の人口は2003年にピークを迎えました。社会増（転入者が転出者より多い）は増えていますが、自然減（死亡数が出生数より多い）が、社会増を上回っていることにより、人口減少が続いています。また、高齢化が進行しており、高齢者数は全18区で4番目に多く、今後は75歳以上の後期高齢者が増加することが見込まれます。単身世帯の増加により、世帯規模は縮小傾向にあり、家族形態が変化しています。

また、就労状況においては、全国と同様に、女性や高齢者の就業率が上昇しています。終身雇用や短期雇用など様々な雇用形態が増えていることに加え、テレワークやフレックスタイム制度などといった働き方そのものも多様化しています。

区民意識調査の回答からも挨拶する程度の近所づきあいを求める人の割合が増えていることが分かります。

こうした社会状況の変化に加えて新型コロナウイルス感染症の流行を背景にしたライフスタイルの変化が影響し、家族や同僚、隣近所における人と人とのつながりが弱くなってきています。

● 「社会的孤立」や「複合化・複雑化した生活課題」の増加

人と人とのつながりが希薄化する中で、困ったときに誰にも相談できない「社会的孤立」により、問題が深刻化してしまうケースが増加しています。また、問題が複数の分野にまたがるために従来の制度だけでは支援が難しく、柔軟な対応が必要な人たちの存在が浮き彫りになっています。

例) ・80代の親がひきこもり状態にある50代の子の生活を支えるといった「8050問題」

- ・親の介護と育児などが同時進行となる「ダブルケア」
- ・家族の介護や家事などを子どもが過度に行う「ヤングケアラー」
- ・社会から孤立した状態で亡くなり、長期間気づかれない「孤立死」

はちまる ごうまる



図5 データから見る旭区の特徴

[]内は、5年前の数値
※5年前に比べ増加 減少
年少人口（14歳以下）
前期高齢者人口（65歳以上74歳以下）
後期高齢者人口（75歳以上）



◆データ出典元・基準日 横浜市住民基本台帳 2025年9月30日 [2020年9月30日] 注釈のついていない数値はこちらを使用しています。

- ※1 国勢調査 2020年 [2015年]
- ※2 自治会町内会加入世帯数及び加入率の推移 2025年4月1日
- ※3 横浜市老人クラブ会員数・単位クラブ数 2025年4月1日
- ※4 障害者入所施設数 2025年10月1日
- ※5 障害者グループホーム数 2025年9月30日
- ※6 横浜市緑被率調査 2019年度
- ※7 横浜市都市公園データ集 2025年3月31日
- ※8 横浜市日常生活圏域等別データ 2025年3月31日
- ※9 平均自立期間 2021-2023年の移動平均値 [2016-2018年]
- ※10 旭区区民意識調査 2023年 [2018年]

◆認知症高齢者数【推計】の計算方法

「日本における認知症の高齢者人口の将来推計に関する研究（九州大学、2014年度）」の「認知症有病率が上昇する場合」を使用し、横浜市住民基本台帳を基に算出しました。

そのほかのデータ
についてはこちら



2 第4期計画の振り返り

旭区では、身近な地域での支えあいの仕組みづくりや地域のネットワーク向上にこれまで取り組んできました。

●「目指す姿」ごとの取組例

目指す姿1

誰もが、ともに生きるまち（相互理解・権利擁護など）

- 幅広い世代に対して、認知症や障害、生活困窮、権利擁護に関する啓発を進めました。
- 子どもの頃から思いやりの意識を醸成する機会や地域への関心を持つ機会をつくりました。
- 地域の中での子どもの居場所づくりを進めました。

目指す姿2

みんなが、声をかけあえるまち（見守り・交流、ネットワークなど）

- 夏祭りなど誰もが参加しやすいイベントの開催やあいさつ運動など、身近な地域での顔の見える関係づくりに取り組みました。
- 地域サロンや移動販売などを通じた、ゆるやかな見守りの機会づくりを進めました。
- 分野や地区ごとの連絡会を開催し、地域における課題や取組の方向性について話し合いました。

目指す姿3

ひとりひとりが、自分らしくいられるまち（自分らしく参加など）

- ホームページやSNSなどオンラインによる地域の活動の情報発信に取り組みました。
- 健康づくりをきっかけとし、仲間とともに自分らしく元気に暮らすための取組を進めました。
- 地域の活動の担い手の育成を目的として地域の活動に関する研修や講座などを開催しました。



目指す姿1



認知症について
正しく理解するための講座



地域の中にある子どもの居場所



スーパーマーケットが
地域に出向く移動販売



通学を見守るボランティア

目指す姿3



健康づくりのためのサークル活動



障害などのある方の外出に付き添う
ボランティア講座

1 策定経過

活動団体の代表者などで構成される地域福祉保健推進会議や地域福祉保健計画策定検討部会（以下「策定検討部会」という。）、活動団体へのヒアリング、ジュニアボランティアへのアンケートなどを通じて、区内の福祉・保健・医療の関係機関・団体の代表や住民の代表の方々から、ご意見をいただきました。いただいたご意見は、暮らしやすいまちづくりに向けて、第5期計画の取組内容に反映しています。

2 計画の方向性

1 基本理念

地域で支えあい 安心して自分らしく暮らせるまち 旭区をつくろう

人と人とのつながりが希薄化する中で、これまで行ってきた地域のつながりづくりや支えあいの取組は重要なものとなっています。そのため、第5期計画では、第4期計画の基本理念を継承し、みんなで支えあう地域を実現するために必要な取組を継続していきます。

2 重点的な取組

基本理念を継承する一方で、社会状況の変化に合わせ、第5期計画を長期的に持続可能なものとするため、現在の社会状況に合わせて重点的に取り組むべきことを次の3つの柱としています。

●柱1 日常的なつながりを通じた地域づくり

人と人とのつながりの希薄化に対応するため、交流の場や機会を新たに増やし続けることは大切ですが、一部の人に負担が偏ってしまう可能性があります。持続可能な地域づくりの取組として、日頃からの挨拶や買い物などを交流の場や機会の一つとして捉え、無理のない日常的なつながりを通じた地域づくりに取り組みます。

●柱2 困ったときでも安心して暮らせる体制づくり

社会の変化とともに複合化・複雑化する生活課題に対して、一つの組織（支援機関、地域組織・関係機関）だけでは十分な対応が難しいケースが増えています。そのため、分野の垣根を越えた連携体制づくりに取り組みます。

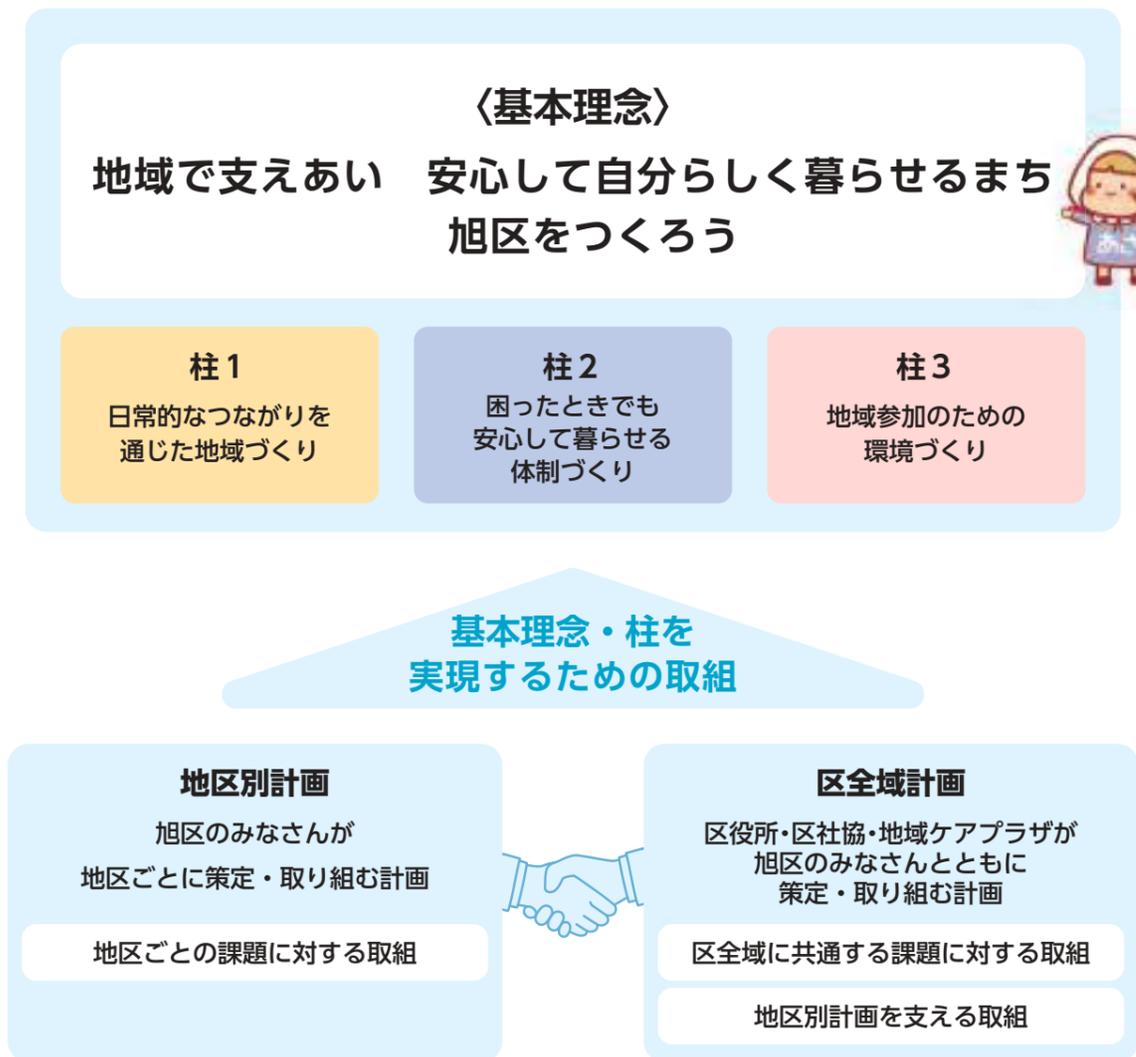
●柱3 地域参加のための環境づくり

ライフスタイルの変化などにより、地域の担い手が不足しています。興味関心のあることなどをきっかけに、地域の活動へ参加する心理的ハードルを下げ、できる範囲で自分事として地域の活動へ気軽に参加できる環境づくりに取り組みます。

3 構成

区全域計画と地区別計画は、区全域や各地区の特徴を活かしながら、基本理念を実現するための取組を進めています。第5期計画における構成を図にすると次のとおりです。

図6 第5期計画の構成

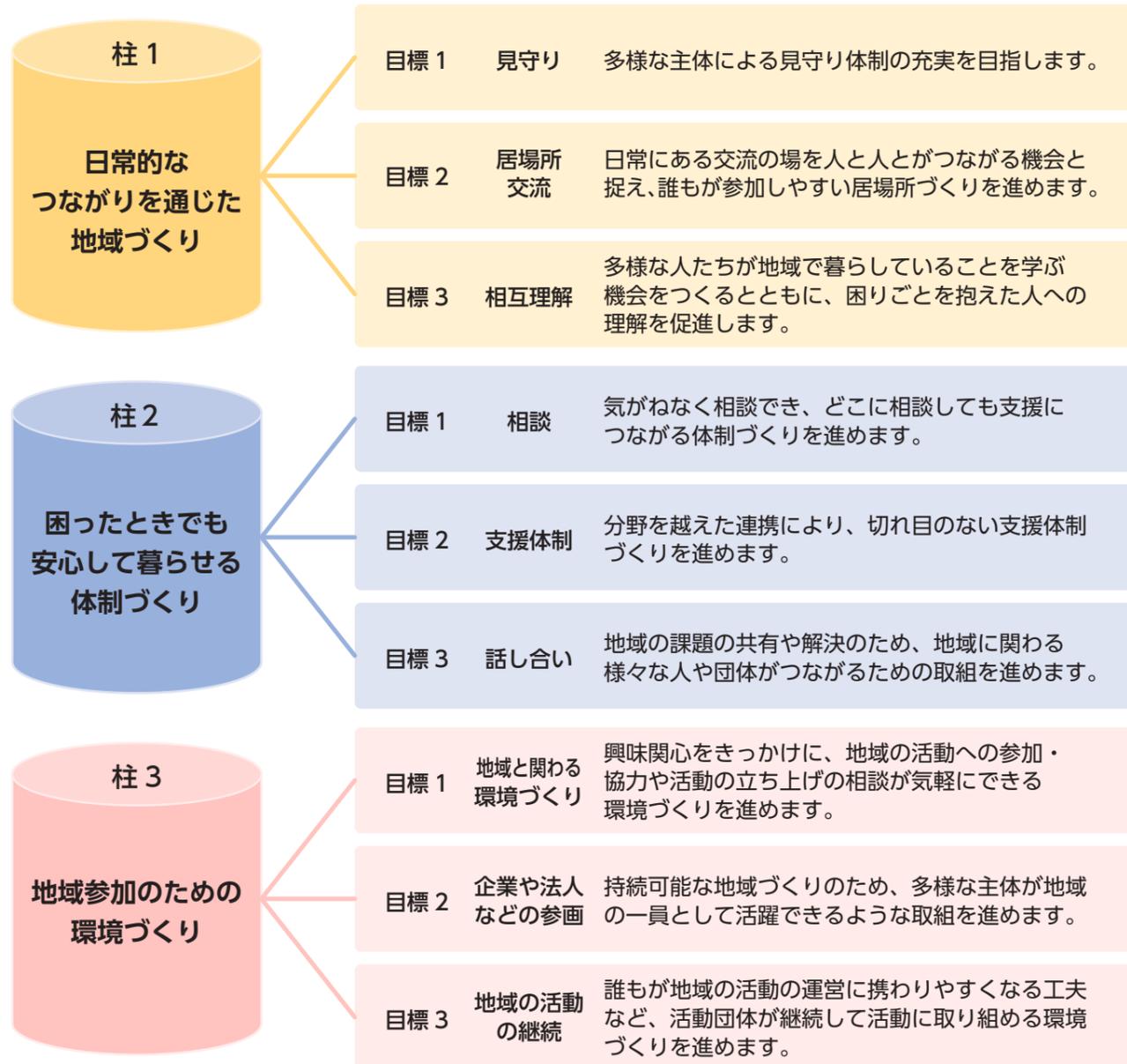


1 区全域計画とは

区全域計画は、区役所・区社協・地域ケアプラザが、旭区のみなさんとともに策定・取り組む計画です。基本理念の実現に向け、旭区の実情に応じて、区全域の方針や取組を示しています。地区別計画では解決が難しい、旭区全域に共通する課題に取り組むとともに、地区別計画の取組を支援します。

区全域計画では、基本理念の実現に向けて柱ごとに3つの目標を掲げ、目標に応じた取組を進めます。

図7 柱ごとの目標



2 計画の主体

区全域計画は、区全域で取り組んでいく計画のため、住民や事業者なども含めた旭区のみなさんも計画の主体となっています。第5期計画では、計画の主体を「一人ひとり」「地域組織」「関係機関」「支援機関」にわけています。

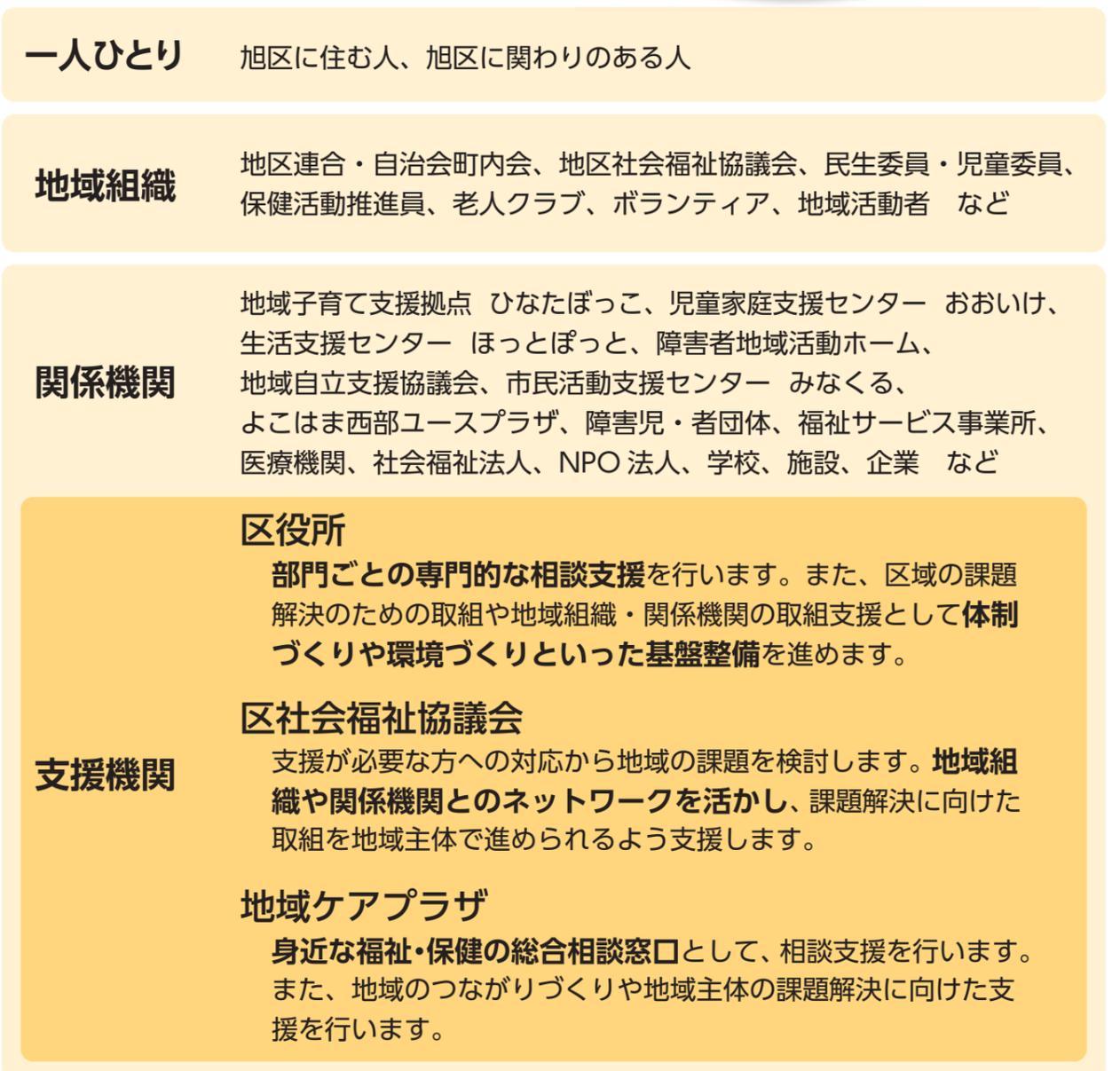
計画の主体の内訳や計画における支援機関（区役所・区社協・地域ケアプラザ）それぞれの強みは図8の通りです。

区全域計画では、計画の主体ごとに目標に対する取組内容を記載しています。

支援機関は、「一人ひとり」「地域組織」「関係機関」の取組を支援する役割があるから、計画の主体としては関係機関とわけ、目標に対する取組内容もわけて記載しているよ。



図8 計画の主体と支援機関それぞれの強み



柱1 日常的なつながりを通じた地域づくり

方向性

柱1では、**日常のさりげない見守り**を通して、ゆるやかにつながる地域を目指します。
 これまでみなさんがつくってきた交流の場や機会を大事にしながら、挨拶や買い物などの**日常の場面も大切な見守り・交流の機会**として考えます。
 そのために、人と人とのつながりの基礎となる**お互いの理解を深めるための取組**を進めます。

区民の声

- ・近所での交流範囲が狭くなる中で、地域がどのように見守りを行っていくかが課題。
- ・サロンなどの集いの場の充実に取り組んでいるが、より日常的な交流の場所がもっとあると良い。
- ・子どもや高齢者、外国籍の方など、その人に合った安心できる場所が必要である。
- ・認知症や障害そのものの理解は広まっているが、生活の中でどのようなことに困っているか知られていない。
- ・地いきの人たちとかかわって仲よくなりたい（ジュニアボランティア アンケートより）



1 見守り

目標 多様な主体による見守り体制の充実を目指します。

一人ひとり 隣人の様子を気にかけてみます。

地域組織や関係機関 これまで行ってきた見守り活動を推進するとともに、ラジオ体操やあいさつ運動などの活動も見守りの機会として捉え、見守りの目を増やします。
 企業や事業所、公共交通機関などが接客などの日常業務を通じて、地域の見守りの目を増やします。

支援機関 住民や地域組織、関係機関とともに日常の見守りを推進します。

例えば 旭区認知症高齢者等 SOS ネットワーク協賛店
 区内の商店などに協力いただき、一人で歩いている、様子が気になる方を見かけた際に声をかけたり、警察・SOS ネットワーク連絡機関に連絡したりする体制をつくっています。

区役所 適切な支援を適切な時期に提供できるように、関係機関の連携を強化し、見守りのネットワークを拡充します。

区社協 見守り活動推進のため、各地区の見守り情報交換会などの機会を増やし、見守りに携わる関係者が連携しやすい環境をつくります。

地域ケアプラザ 民生委員・児童委員や地区の関係機関などとの連携を密に図ります。情報を共有し、必要時は迅速に対応するなど、地域を見守る拠点としての役割を担います。

目標に対する取組

2 居場所・交流

目標 日常にある交流の場を人と人がつながる機会と捉え、誰もが参加しやすい居場所づくりを進めます。

一人ひとり 通勤・通学やゴミ出しの際など、近所で挨拶・会釈をしてみます。
 町内の回覧板・掲示板を気にしてみます。

地域組織や関係機関 散歩や買い物などを日常の交流・関わりの機会として捉え、住民同士のつながりを増やします。
 地域の中で挨拶することを呼びかけます。

支援機関 誰もが参加しやすい日常の交流の機会づくりを支援し、身近な地域での居場所づくりを進めます。
例えば 移動販売・移動スーパー
 自宅のすぐ近くで買い物ができるようになることで、外出や、近所の人と定期的に顔を合わせるきっかけになります。

区役所 孤立予防や健康づくりを目的とした居場所づくりや健やかに過ごせるための環境づくりの取組を進めます。

区社協 雑談や相談をしやすい環境を地域の中に増やしていくため、多様な交流の場づくりを進める地域の活動への支援を強化します。

地域ケアプラザ 地域ケアプラザ内外を問わず、地域の場において居場所・交流・健康づくりの場を展開します。

目標に対する取組

3 相互理解

目標 多様な人たちが地域で暮らしていることを学ぶ機会をつくとともに、困りごとを抱えた人への理解を促進します。

一人ひとり 自分たちのまちに様々な人たちがいることを知ります。

地域組織や関係機関 地域の現状を踏まえた具体的な困りごとを学ぶ機会をつくります。

支援機関 身近な地域に多様な人がいることを地域の中で学ぶための機会づくりを推進します。
例えば 福祉教育
 学校や地域、企業からの「福祉に関することを学びたい」という依頼に基づいて、福祉施設や当事者団体、地域の方などにご協力いただき、プログラムの調整、講師の紹介などを行っています。

区役所 生活困窮や認知症、障害、外国籍の方などの具体的な困りごとへの理解促進のために、講演会の開催や広報物の作成などの取組を進めます。

区社協 福祉教育やボランティアセンターの機能を活かし、若い世代と活動団体や福祉施設との交流を促進します。

地域ケアプラザ 世代を問わず、支えあいの活動を身近に感じられるような機会を提供します。

目標に対する取組

柱2 困ったときでも安心して暮らせる体制づくり

方向性

柱2では、困りごとを気軽に相談できるよう相談先の周知を進めるとともに、どこに相談をしても必要な支援が適切に届くように**相談体制の充実**を進めます。

そのうえで、複数の分野にまたがる相談に対応するため、分野の垣根を越えた**切れ目のない、誰も取り残さない支援体制**づくりを進めます。

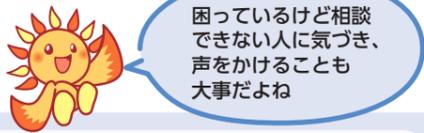
また、個人の困りごとから把握した地域の課題を共有し、**解決**につなげるため、**地域に関わる様々な人や団体が話し合う**取組を進めます。

区民の声

- ・相談窓口を知らない、ハードルが高いと感じる人がいるため、相談しやすい環境づくりが必要である。
- ・どこに相談しても適切な機関につながり、必要な支援を受けることができるよう、関係機関の連携やネットワークの強化が必要である。
- ・地域組織と関係機関で課題を共有する場が多くあると良い。地域の中で話し合い、協働して課題解決を目指す体制が必要である。
- ・人がわからなかったことがあったとき、たすけあえる町 (ジュニアボランティア アンケートより)



1 相談



目標 気がねなく相談でき、どこに相談しても支援につながる体制づくりを進めます。

一人ひとり

- ・自分や家族のことで相談先が分からず悩んだときは、地域ケアプラザに相談してみます。
- ・困ったときのために、相談先や福祉制度について知っておきます。

地域組織や関係機関

- ・困っている人を見かけたら、地域ケアプラザなどの相談先につなげます。

支援機関

- ・地域の活動の訪問やチラシ配布により、相談先や福祉制度を周知します。
- ・住民や地域組織が日常的な関わりの中で得た気づきや相談について、早期に適切な機関につなげられるよう支援します。

例えば 地区民生委員児童委員協議会の定例会への参加
民生委員・児童委員が把握する解決が難しい事例 (生活困窮、介護疲れなど) について共有して、福祉保健の専門職が民生委員・児童委員と連携しながら対応を考えます。

区役所

相談先を知ってもらうために、支援機関・関係機関の相談窓口や民生委員・児童委員など身近な相談相手の活動を周知します。

区社協

活動団体や個人ボランティアなどのつながりを活かし、課題の解決を支援します。課題を解決するとともに、地域の中での課題の発見・検討・解決の仕組みづくりを促進します。

地域ケアプラザ

地域の身近な相談場所として高齢者だけでなく、幅広く障害者や子どもなどの相談を受け、関係機関と連携し、迅速かつ的確に必要な支援につなげます。

目標に対する取組

2 支援体制

目標 分野を越えた連携により、切れ目のない支援体制づくりを進めます。

地域組織や関係機関

- ・分野ごとの情報共有や課題検討の機会を増やすとともに、他分野との連携についても話し合います。

支援機関

- ・個々の機関では解決が難しい複合化・複雑化した課題に対応するため、分野を越えた連携体制づくりに取り組みます。

例えば 成年後見サポートネット
判断能力が不十分な人の権利を守るため、福祉・法律専門職や支援機関などによる連携・ネットワークの強化を協議し、権利擁護に関する課題を検討します。

区役所

地域組織や関係機関、支援機関が互いに協力し合えるよう、情報交換をするなど顔の見える関係づくりを支援します。

区社協

権利擁護事業や成年後見制度などに関わる支援者同士がお互いを知る機会をつくり、連携体制を強化します。

地域ケアプラザ

地域における専門機関や民間企業、住民主体の活動などそれぞれの取組を把握し、連携への支援を行います。

目標に対する取組

3 話し合い

目標 地域の課題の共有や解決のため、地域に関わる様々な人や団体がつながるための取組を進めます。

一人ひとり

- ・周囲の困りごとや気になることを、自治会町内会や民生委員・児童委員、老人クラブなどの地域組織や地域ケアプラザに話してみます。

地域組織や関係機関

- ・話し合いの場に様々な世代の人や活動団体、関係機関を招いて、地区のことについて話し合い、課題解決に向けて取り組みます。

支援機関

- ・地域の困りごとや課題に気づき、解決に向けて地域住民が話し合う場づくりを支援します。

例えば 見守り活動報告会 (連絡会、情報交換会 など)
民生委員・児童委員の活動や食事会、サロン、ちょこっとボランティアなどの活動を通して見守りをしている団体が集まり、日々の気づきを共有し、見守りの意識を高めます。

区役所

地域住民や関係機関だけでは解決が難しい課題を話し合う場に参加し、解決に向けて共に取り組みます。

区社協

地域の話し合いの場において具体的な相談事例を共有する機会をつくり、個別の困りごとを地域の課題として柔軟に対応できる地域づくりを進めます。

地域ケアプラザ

地域住民が安心して生活できるよう区役所や関係機関、民生委員・児童委員などと日頃から情報共有を大切にします。

目標に対する取組

柱3 地域参加のための環境づくり

方向性

柱3では、自分らしく、いきいきと暮らし続けられるまちづくりに向けて、興味関心などをきっかけに**地域と関わる環境づくり**を進めます。

また、企業や法人などの**多様な主体**が得意分野や専門性を活かし、地域の支えあいの担い手として活躍できる取組を進めるとともに、**既存の団体が活動を継続できる環境づくり**を行います。

区民の声

- ・地域の活動の担い手不足が進んでいる。地域の活動に新しい人が入ってこない。
- ・就労・子育てなどの生活状況により、地域の活動に担い手として参加しづらいことがある。
- ・地元企業や福祉施設なども、地域の活動の担い手となってもらえると良い。
- ・防災や健康づくりなどは多くの人にとって関心が高く、住民が地域とつながるきっかけになる。
- ・地域で、どのような活動がどこで行われているか知らないし、分からない。
- ・活動の立ち上げ方が分からない、立ち上げても継続が難しいとの声があり、活動団体への支援が必要である。
- ・おまつりのてつだいに参加したい。(ジュニアボランティア アンケートより)

子どもの声も入っているよ

1 地域と関わる環境づくり

目標 興味関心をきっかけに、地域の活動への参加・協力や活動の立ち上げの相談が気軽にできる環境づくりを進めます。

- 一人ひとり**
 - ・お祭りやどんど焼きなど地域のイベントや活動に参加してみます。
 - ・趣味や特技を活かせるような地域の活動を探してみます。

- 地域組織や関係機関**
 - ・地域住民が楽しみながら交流できるイベントを企画します。
 - ・防災や防犯、健康づくりなど、住民の関心が高い活動への参加を幅広く呼びかけます。

- 支援機関**
 - ・地域の魅力発信支援とともに、「やりたいこと」と「地域ニーズ」をマッチングするなど、誰もが地域の活動に参加・参画しやすい環境づくりを進めます。

例えば あさひのつながり応援補助金
身近な地域の中で、誰もが楽しく参加できる活動をしてみたい、自分の好きなことや特技で地域を元気にしたいなど、活動のきっかけを応援する補助金です。

区役所	区社協	地域ケアプラザ
区民の興味関心を大切にしながら、区民が地域とつながる機会を増やします。	誰もが気軽に地域の活動に参加できるよう、ボランティア活動の内容をより充実させ、活動者の「やりたいこと」とマッチするよう努めます。	多様な活躍の場に関する情報提供や見学会の開催など、積極的に取り組みます。

目標に対する取組

2 企業や法人などの参画

目標 持続可能な地域づくりのため、多様な主体が地域の一員として活躍できるような取組を進めます。

- 地域組織や関係機関**
 - ・企業や法人なども地域づくりに関する住民同士の話し合いに参加し、顔の見える関係づくりに取り組みます。

- 支援機関**
 - ・企業や法人などが、住民と一緒に地域の活動の担い手として参画するための環境づくりを進めます。

例えば あさひ支え合いプロジェクト (区社協施設分科会) ※詳細は、20ページの「あさひ支え合いプロジェクト」を参照
区内の福祉施設で地域貢献のためのプロジェクトチームを立ち上げました。法人と地域組織などとの連携事例集を作成し、企業や法人の参画のきっかけづくりを進めています。

目標に対する取組

区役所	区社協	地域ケアプラザ
持続可能な地域づくりのため、企業や法人、学校など地域の多様な主体が地域の一員として活躍できるよう支援します。	地域の活動の活性化に向けて、福祉施設や企業と連携し合える仕組みを検討します。	地域の活動のコーディネーターおよび活動の支援を積極的に行います。

3 地域の活動の継続

目標 誰もが地域の活動の運営に携わりやすくなる工夫など、活動団体が継続して活動に取り組める環境づくりを進めます。

- 一人ひとり**
 - ・自分が得意とすること、好きなこと、活かせると思うことで、地域の活動に協力してみます。

地域の活動について、地域ケアプラザや市民活動支援センター みなくるに聞いてみよう

- 地域組織や関係機関**
 - ・短時間や単発の参加、活動の曜日や時間を工夫するなど、地域の活動に誰もが参加しやすい環境づくりに取り組みます。
 - ・地域の活動を広報紙やホームページ、SNS など様々な媒体で発信します。

目標に対する取組

- 支援機関**
 - ・活動内容の周知や補助金などによる活動団体への活動継続支援を行います。

例えば 周知・運営に関する支援
活動団体への補助金などの情報提供や地域に向けたイベント・団体の活動PR方法を一緒に考えます。

区役所	区社協	地域ケアプラザ
デジタルツール(ホームページ、SNSなど)の活用支援などによる活動団体の負担軽減や機能強化のための取組を進めます。	小規模な活動や幅広い活動内容を応援できる助成金の検討を進めます。	幅広い年代に対して、既存の地域の活動への参加や地域の人材育成を支援します。

柱ごとの取組紹介

柱1 相互理解

● きぼうファーム ～一緒に楽しむことから深まる障害理解～

関係団体 きぼうファーム、支えあい連絡会（希望が丘南地区、希望が丘地区）

希望が丘南地区、希望が丘地区で取り組まれているきぼうファームでは、障害児・者やそのご家族が地域の中で交流を深められるよう、地区センターや地域ケアプラザで交流会を年3回開催しています。交流会では春はジャガイモほり、秋はサツマイモほり、そして冬はポッチャで体を動かしています。

民生委員・児童委員や地区社会福祉協議会の方もボランティアとして参加し、企画から運営まで協力し合いながら行っています。

地域の方々のご協力のもと、参加者のみなさんは自然体でのびのびと楽しみ、保護者同士の交流も広がっています。交流会へのリピーター参加が多いことから、この場が安心して過ごせる居心地の良い場になっていることがわかります。

一緒に楽しみながら交流する中で障害への理解を深め、定期的に顔を合わせることで住民同士の顔の見える関係づくりにもつながっています。また、こうした相互理解や日常的なつながりづくりを推進することが災害時の支えあいにもつながってくると考え、地域で取り組んでいます。



ジャガイモの収穫



七夕の飾りづくり

柱2 話し合い

● 地域ケア会議 ～支援とはつながりをつくること～

関係団体 地域ケアプラザ、民生委員・児童委員など

地域ケアプラザでは、住民からのご相談や困りごとに対して、介護保険などの公的な制度や専門的な支援につなぐ場合もありますが、地域のみなさんと一緒に相談者への支援を考えることもあります。

例えば、地域ケア会議で話し合った結果、認知症の相談者が道に迷ったときのために、ご本人いきつけのお店とケアマネジャー、地域ケアプラザ間で連絡網をつくることにしました。立場を超えて連携していくことで、いざというときにスムーズに支援を行えます。

また、ヤングケアラーのお子さんについて話し合ったときには、頼れる大人がいない本人の孤立を防ぐために、地域ケアプラザという場を活かしました。地域の方と知り合いになることや、ボランティア活動に参加してもらうことで、親の介護以外の役割や生きがいを持つことができるケースもありました。

このように「地域ケア会議」では、地域の方にも参加してもらうことで、当事者が地域とつながりを持つ方法を模索することもあります。困りごとの解決だけでなく、当事者と関わる地域の方々との話し合いながら、本人が孤立しないよう地域ケア会議を通して「つながり」をつくることも地域ケア会議を開催する重要な意義の1つです。



地域ケア会議

柱3 企業や法人などの参画

● 移動販売 ～事業者と地域による交流の場づくり支援～

関係団体 移動販売事業者、ガーデンテラス白根台自治会、横浜市白根地域ケアプラザ

旭区では、月に数回程度、公園など身近な場所で買い物ができるよう、スーパーマーケットがトラックなどで商品を運ぶ「移動販売」がいくつかの場所で行われています。

ガーデンテラス白根台団地で移動販売を行う事業者は、買い物に不便な地域の買い物支援だけでなく、移動販売の機会を活用し、暮らしやすいまちづくりに向けた様々な取組を進めてきました。

その一環として 2024年・2025年には、移動販売事業者、自治会の移動販売運営ボランティア、白根地域ケアプラザと協働し、健康相談会を実施しました。

健康相談会は、移動販売事業者の職員（管理栄養士、薬剤師）による栄養や薬の相談コーナーや、血管年齢チェック、地域ケアプラザの職員による相談会が行われました。買い物の合間に参加したり、待ち時間におしゃべりを楽しんだり、普段移動販売に来られない方も参加して、さまざまな方の交流の場になりました。

移動販売の機会を交流の場にしたいと地域側もかねてから模索しており、その後の移動販売サロン「お休み処」の活動にもつながりました。移動販売で買ったお弁当を食べたり、お茶を飲んでおしゃべりしたり気軽に誰でも参加でき、交流と見守りの場になっています。



移動販売



健康相談会

● あさひ支え合いプロジェクト ～施設の強みを活かした地域貢献～

関係団体 区社協 施設分科会

あさひ支え合いプロジェクトは、区社協の会員である約80施設による「施設分科会」での意見交換からスタートしました。「福祉施設として、地域のためにできることはないか」、継続して地域貢献の取組について検討を行っています。地域住民だけでなく、支援機関、福祉施設など、多様な主体の連携により「地域で安心して自分らしく暮らせるまち」を目指して、取組を進めています。これは、持続可能な社会を作っていくうえで、欠かせない視点です。本プロジェクトでは、各施設の強みを活かしてできることに取り組み、地域貢献を果たしていくことを目指しています。



あさひ支え合いプロジェクト
活動報告リーフレット

1 地区別計画とは

地区別計画は、日頃から地域において様々な活動を行っている地区連合・自治会町内会や地区社会福祉協議会のメンバー、各地区の住民などのみなさんによって策定されています。

地区ごとにどのような地域をつくりたいか検討し、各地区の「目指すまちの姿」、目指すまちの姿に近づくための「目標」、「主な取組」を計画の中にまとめています。

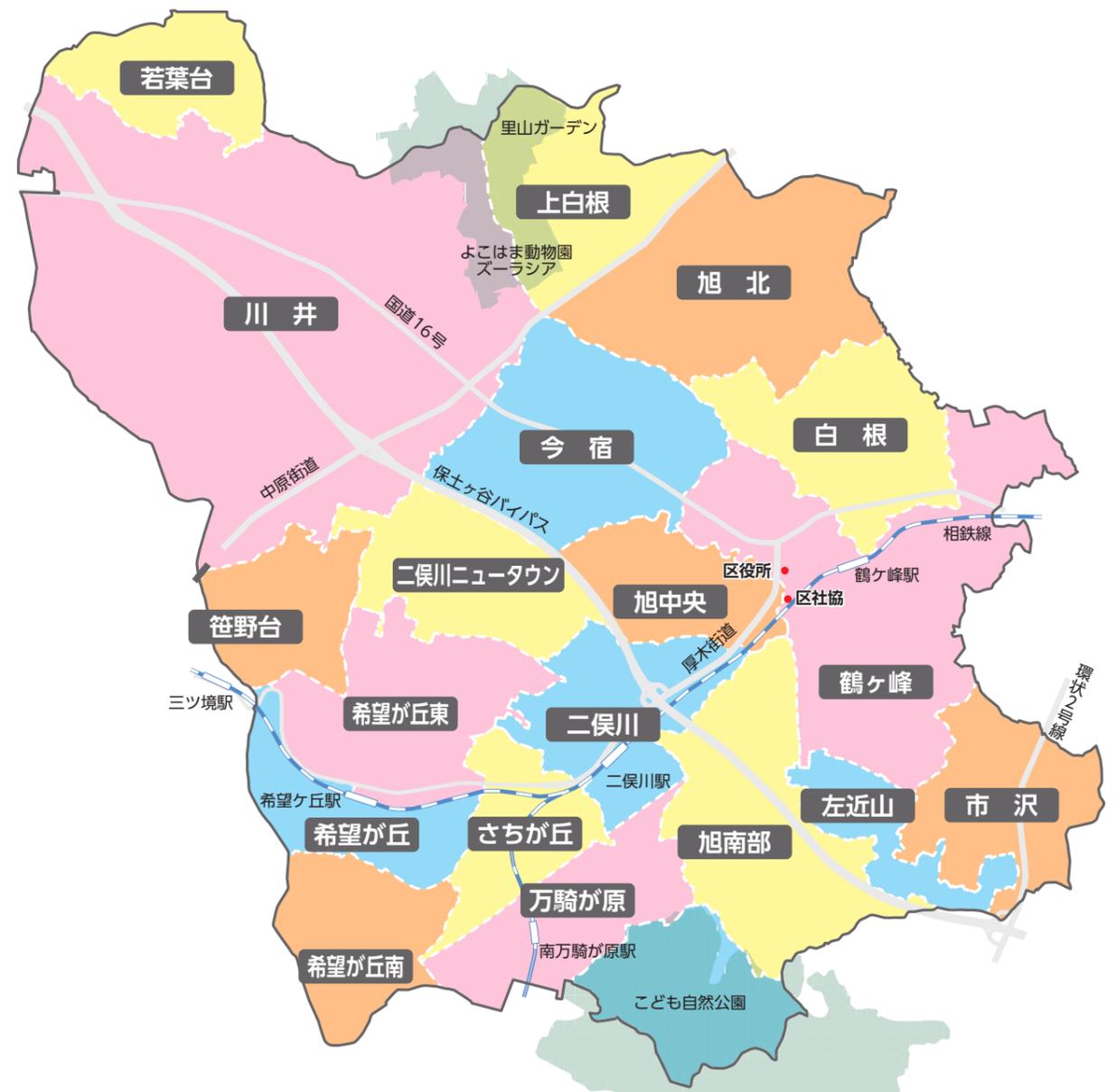
目指す
まちの姿

鶴ヶ峰地区	垣根のないまち／みんなにやさしい鶴ヶ峰
白根地区	ともに助けあい、ふれあう・支えあうまち白根
旭北地区	人と人、人と自然のきずなを大切に、包みあうまち
上白根地区	ともに声をかけ合い、ともに助け合い、ともに考え、ともに育ち、ともに生きる街
今宿地区	笑顔で支えあい、安心して暮らすことのできるまち今宿
川井地区	みんなが、地元でつながり支えあう心豊かなまち川井
若葉台地区	出会い ふれあい 支え合い ～気軽に声をかけあい相談できるまち～
笹野台地区	自治会単位で、近隣の皆さんの事をよく知り、助け合って地域が「住み良い街」「困りごとを気軽に相談できる街」「お互いにゆるやかにささえあえる街」になれるよう努めます。
希望が丘地区	世代や環境を超えてコミュニケーションが自然と生まれるまち
希望が丘東地区	みんなで築く生き生き活力あるまち
希望が丘南地区	ご近所が仲良く声をかけ合い、安心して暮らせるまち
さちが丘地区	誰もが安心して心豊かにくらすまち
万騎が原地区	誰もが主役で、一人ひとりが輝けるまち
二俣川地区	みんなで住みやすい環境基盤を整え、地域の価値を維持・向上していこう！
二俣川 ニュータウン地区	「住んで良かったと思える街ニュータウン」 -誰もがともに、自分らしく安心して暮らせるまち-
旭中央地区	こころの見えるまちづくり
旭南部地区	みんなが安心して暮らせるまち みんなで生きてゆくまちを みんなで作ってゆこう！
左近山地区	活気ある左近山を未来につなごう
市沢地区	全世代の住民が生き生きと交流する町 市沢

2 地区の圏域

旭区では、19の地区ごとに地区別計画を策定しています。

図9 地区の圏域マップ



福祉・保健に関する相談ができる地域ケアプラザは住んでいる場所ごとに決まっているよ。確認してみよう！



地域ケアプラザ紹介ページ

3 地域の日々の活動と効果

地域では、移動販売や子育てサロンなど様々な活動が行われています。こうした地域の活動の中から生まれた様々な効果が、地域の困りごとの解決や住みやすいまちづくりの実現につながっています。

図10 日々の活動と目指すまちの姿のつながり

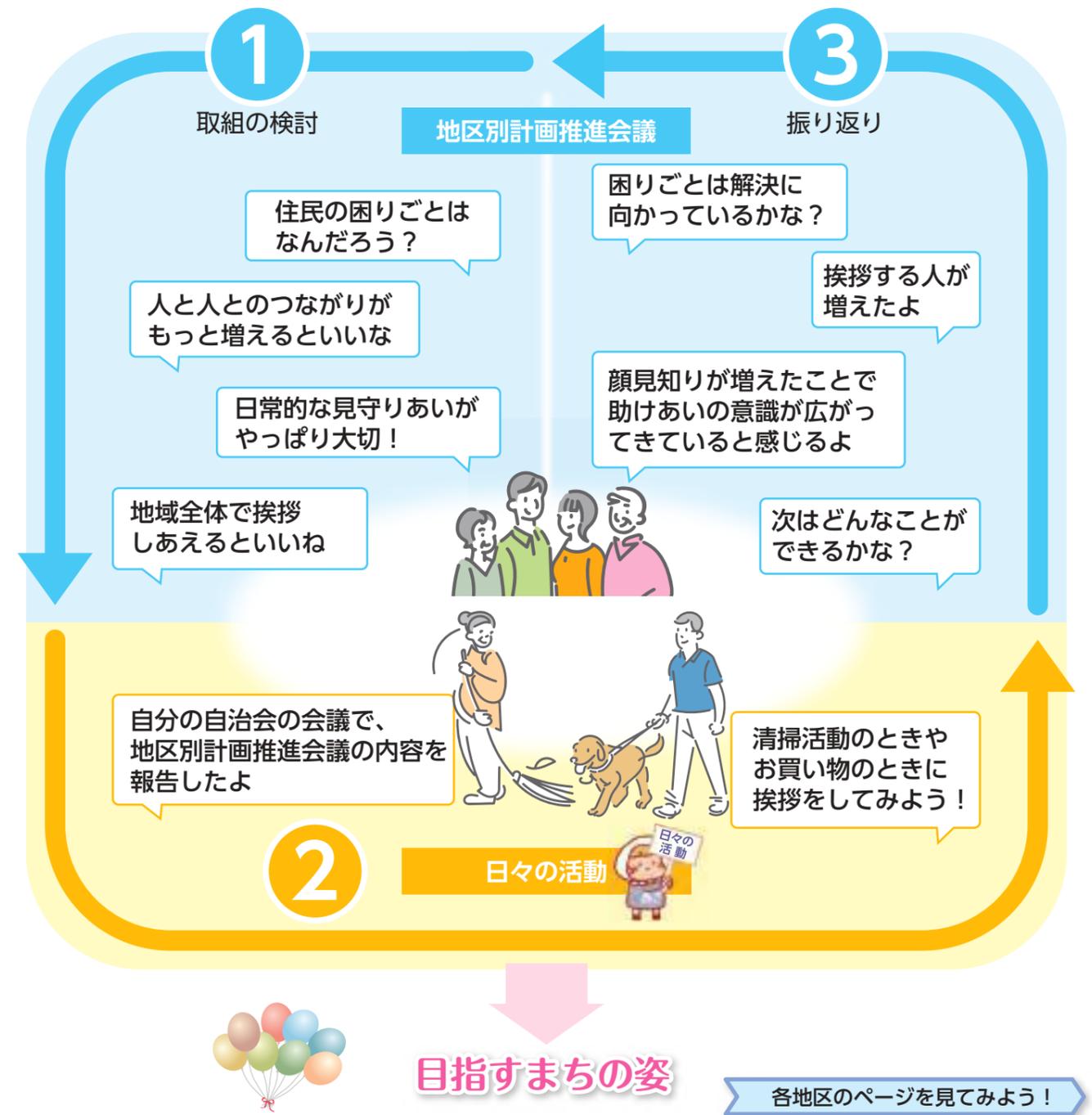


4 地区ごとの取組と話し合い

「目指すまちの姿」に近づくためには、住民や地区に関わりのある一人ひとりが目指すまちの姿やそのために取り組まれていることについて知り、同じ方向を向いて協力していくことが大切です。

そのためには、地区の状況や各活動団体が取り組んでいることなどを共有する機会（地区別計画推進会議）を定期的に持ち、どのような工夫や取組が大切か話し合うことで、今後の活動につなげていくことができます。

図11 地区別計画推進会議と日々の活動について



垣根のないまち／みんなにやさしい鶴ヶ峰

高齢者・子ども・障がい者・子育て世代・外国籍の方など様々な人とともに、みんなにやさしく、安心・安全な鶴ヶ峰のまちにしていきます。

推進体制

地区連合・自治会町内会、地区社会福祉協議会、各部会など、みんなで取り組んでいます。



目標と主な取組

目標 A 多くの人に参加してもらおう！みんなでワイワイ

- **会いたい (交流)**
 - ▶ 住民同士が触れ合う機会や企画を増やしていく
 - ▶ 地域活動を通して会える機会を作る
 - ▶ 地域の活動の楽しさを知ってもらい、多くの方に参加してもらう
- **知りたい (情報発信)**
 - ▶ 世代やニーズにあわせてコミュニケーション方法を検討していく (インターネット、広報誌、口コミなど)
 - ▶ 地域食堂、地域カフェ、運動会、夏祭り、どんど焼き、桜を観る会など地域の活動の情報を発信していく
- **つながりたい (連携)**
 - ▶ 挨拶をすることで地域でのつながりを深めていく
 - ▶ 様々な団体がよりよく連携できる方法を考えて、地域活動を盛り上げていく

目標 B 担い手を増やそう！みんなでワッショイ

- **地域を支える全世代** ~ All Players ~
 - ▶ 高齢者や子どもも地域を支える大切なマンパワー
 - ▶ 誰もが地域活動の主役
- **新たな担い手** ~ New comers ~
 - ▶ イベントを通してきっかけ・つながりを作り、新しい関係性を築いていく
- **多様な人材** ~ Diversity ~
 - ▶ インターネットを活用して、若い世代を巻き込む
 - ▶ 得意なことで参加できる環境を作り、つながりを広げていく

目標 C 見守り支えあうまちづくり！みんなでスクラム

- **助け上手・助けられ上手**
 - ▶ 助けられたり、助けたり、おたがいさまの雰囲気づくり
- **見守り上手・見守られ上手**
 - ▶ おたがいに「見守ってくれてありがとう」「またよろしくね」の声掛け
 - ▶ 気楽に参加できる活動を増やして、見守りにつなげる
 - ▶ 隣近所で見守り声掛けを進め、手を上げやすい環境をつくる
- **伝え上手・受け取り上手**
 - ▶ 世代や個人に合った多様な情報収集・伝達により取り残される人を作らない
 - ▶ 地域活動が分かりやすいように情報を発信していく

主な取組



おしゃべりカフェつるがみね

誰でも気軽に立ち寄れるカフェです。障がいのある方も一緒に運営しています。



地域食堂まちあわせ

子どもとボランティアの大人の交流の機会になっています。



防災訓練

各地区で防災訓練が行われています。

これまでの取組

親子サロン、高齢者ふれあいサロン、移動スーパー、子育て支援連絡会、障がい者地域作業所連絡会など、たくさんの取組を行ってきました。

ともに助けあい、ふれあう・支えあうまち白根

- 多世代の人が気軽に参加できる身近な居場所がある
- 隣近所の人や周りの人をみんなで支えあう関係ができています
- 子育て世代が行事やボランティア活動に積極的に参加している
- 地域行事や活動を支える担い手が次世代につながっている
- 情報が必要な人に届き、行事やサロンの参加者が増えている
- 誰もが健やかで安全・安心に暮らせる街になっている

これまでの取組

コロナ禍の影響により地区の活動が縮小しました。現在、一部の行事は停滞していますが、「白根カーニバル」「新春子供大会」は順調に回復しつつあります。また、「白根みらい食堂」「不動丸ファーム」が新規開設しました。今後は、地区の主要行事を継続し、できる範囲で新たな交流の機会づくりに取り組みます。

目標と主な取組

目標 A 見守り・支えあいの関係づくりを進めよう

- ▶ 町内会自治会の班・組単位での高齢者の見守り活動の推進 例) ご近助ほっこり活動
- ▶ 日ごろから一人ひとりが声をかけあうことによる顔の見える関係づくり 例) あいさつ運動
- ▶ 地域住民の困りごとなど課題解決に向けた「話し合いの場」づくり 例) 支え合い連絡会

目標 B 安心して健やかに暮らせるまちをつくろう

- ▶ 地域ぐるみで日ごろの備え、防災・減災・防犯対策に取り組む
- ▶ 地域防災拠点の運営訓練への中学生や若い世代の参加促進
- ▶ 身近な町内会自治会館や公園などを活用した健康づくり・ラジオ体操の拡充



地域防災拠点訓練 (不動丸小学校)



ラジオ体操 (白根公園)



小学校児童登下校見守り不動の森「学援隊」



いきいき白根 (白根町内会館)



白根地区連合防災訓練



公園愛護会 (白根公園)

目標 C 身近なところでふれあいの場を広げよう

- ▶ 小中学生が地域行事・活動に参加できる交流の機会の拡充
- ▶ 現在行っている行事や活動を守りながら継承し、状況に合わせて運営を見直す
- ▶ 白根カーニバルなど地域行事をきっかけとして、地域活動に興味を持ってもらう
- ▶ 参加・活動していない現役世代・リタイア世代の人が参加しやすい環境づくり
- ▶ 子どもから高齢者まで多世代交流の機会の拡充 例) 白根みらい食堂
- ▶ 地域行事や活動での小・中学校・PTA との連携促進 例) 不動丸ファーム
- ▶ 地区の障害者施設・高齢者福祉施設と連携した交流活動の促進 例) なかよし



白根カーニバル



新春子供大会 もちつき



どんど焼き



ふれあい大運動会



白根みらい食堂



移動販売



不動丸ファーム



老人会白根支部 相寿会 (相友自治会館)

推進体制

白根地区地域福祉保健計画推進委員会…地区社会福祉協議会、町内会自治会連合会、単位町内会自治会、民生委員児童委員協議会、青少年指導員連絡協議会、スポーツ推進委員連絡協議会、保健活動推進委員会、家庭防災員会、環境事業推進委員会、老人会(クラブ)、子ども会、小中学校、PTA、幼稚園、保育園、防犯指導員、白根カーニバル実行委員会、地域支え合い連絡会・ボランティア連絡会、不動丸小学校地域防災拠点運営委員会、老人福祉センター「福寿荘」、地区福祉施設、白根地域ケアプラザ

人と人、人と自然のきずなを大切に、包みあうまち

- ある時は助け、ある時は助けられて、“おかげさま・お互いさま”
- 次世代に向けて、“GREEN TOWN 旭北(人にも自然にも優しいまち)”の構築
- あらゆる世代にとっての“社会(生活)の障害”に向き合う

これまでの取組

旭北まちぐるみ福祉推進会議の3つの部会による活動を中心に、地域に様々な取り組みが進んだ。今後は地域全体の気運や意識を高めていけるとよい。

目標と主な取組

目標 A 安心安全なまちづくり

- 見守り・ひとりも取り残さない
 - ▶ 災害時あんしんカードの普及啓発
 - ▶ 障害特性を持たれる方や色々な人がいることを理解する
- 普段から声かけ・あいさつをする
- ふらっといける居場所づくり、おでかけの機会づくり
- 防犯パトロール
 - ▶ 登下校パトロール、地域パトロール
- 災害時の減災
 - ▶ 要援護者および高齢者支援の取組
 - ▶ 各自治会・町内会での防災訓練の実施



災害時あんしんカード



第1 昼食会

目標 B 夢のあるまちづくり

- 子育て支援
 - ▶ 親子のつどいの広場や子育て支援の場の維持拡大
 - ▶ 乳幼児期から学童期まで見据えた親子支援
- 子どもが過ごしやすい地域をつくる
 - ▶ 子どもにとって「気軽に話ができる近所の大人」を増やす
 - ▶ 子どもが「気軽に立ち寄れる居場所」の維持拡大
- 次世代の地域の担い手を育成
 - ▶ ジュニアボランティア活動への支援
 - ▶ 中高生のボランティア活動を企画
 - ▶ 子どもたちが自発的に地域活動に参加したいと思う動機付け
 - ▶ 子どもたちとの意見交換の場を設ける



子育て支援の取組

目標 C 和み親しめるまちづくり

- 顔の見える環境づくり
 - ▶ 移動スーパーの維持拡大
- 生活の利便性向上
 - ▶ 地域交通や買い物支援の検討
 - ▶ お助け隊やちょこっとボランティアとの連携
- 環境整備
 - ▶ 危険な道路など環境上のリスク低減に向けた行政への提言
 - ▶ バリアフリー・歩道の拡幅の要請
- 災害時への備え
 - ▶ 日頃から隣近所の関係性を深めることで、災害時に備えられる地域づくり
 - ▶ 道路の通称をつけ、災害時に安全な避難路の指示をしやすくする



移動スーパー

プロジェクト活動

**中堀川
いこいの場づくり**

中堀川プロムナードの
美化を進め
ホタルを
呼び戻す活動

**旭北地球お助け隊
地球温暖化対策**

将来を担う子どもたち
にどのような地球を
残せるか

Let's あいさつ

地域に顔見知りを増やす
ために、毎月2日を
強化日として地域全体
であいさつを実施

**移動しやすい
まちづくり検討会**

公共交通機関以外の
移動方法を模索

推進体制

旭北まちぐるみ福祉推進会議(年4回開催)…連合自治会、地区社会福祉協議会、民生委員・児童委員、スポーツ推進委員、保健活動推進員、環境事業推進委員、青少年指導員、保護司、子ども連絡協議会、防犯・防災活動委員会、自治会・町内会、かがやきクラブ、友愛活動推進員、小学校、中学校、福祉・保健施設

地域の方への メッセージ

“まちぐるみ”とは…
このまちに住むあなたのためのプロジェクトです!



目指す
まちの姿

上白根地区

ともに声をかけ合い、ともに助け合い、 ともに考え、ともに育ち、ともに生きる街

このスローガンが目指す街は、まるで一つの大きな家族のように、誰もが孤立することなく、安心して自分らしく暮らせる場所です。そこでは、5つの「ともに」が日常の風景として根付いています。

目標と主な取組

目標 A

あいさつ運動で、顔の見える関係と防犯力を高める

あいさつ運動を地域に展開し、あいさつ運動を通じて、住民間の「顔の見える関係」を深め、日常の異変に気づき、声をかけ合える街を育むことで、子どもから高齢者まで誰もが安心して暮らせる、防犯力の高い地域を築きます。

自治会・町内会の掲示板に
あいさつ運動のポスターを掲示



ひかりが丘団地自治会のお祭りや、地区社協、民生委員、連合が主催する様々な地域交流イベントを毎年開催。活動を通じて地域のつながりを深め、見守りの機会を創出しています。

ひかりが丘団地自治会主催のお祭り

目標 B

見守り連携で、孤立防止と 早期対応を実現する

地域住民が互いに声をかけ合い、支え合うことで、全ての住民が安心して安全に暮らせる「顔の見える見守りネットワーク」を構築し、孤立の防止と異変の早期発見・早期対応を可能にします。



地区社協主催の「ちいさなみちあそび」



連合主催の「ふれあい広場」



目標 C

連携防災体制を構築し、 災害時の安全確保と相互支援を図る

地域住民一人ひとりが災害への意識を高め、地域全体で連携した防災体制を構築します。地域防災拠点、自治会・町内会の連携を強化し、災害発生時における住民の安全確保と迅速な相互支援を可能にします。



地域防災拠点の資機材訓練



ひかりが丘団地自治会の
ローリングストック事業

これまでの取組

- ・あいさつ活動
- ・見守り活動
- ・防災活動



- ・各団体の単独活動に留まり、団体間の連携が少ない
- ・本来活動の主体となるべき地域住民の認知度が低い



目標 D 地域連携ネットワーク「TOMONITY」を構築・運営

地域が連携して支えあうネットワーク「TOMONITY(トモニティ)」を作り、継続的に運営します。

TOMONITY(トモニティ)とは

支えあい連絡会に参画する地域組織や団体が連携し合いながら、地域住民の見守りや福祉的な支援、防災活動などを包括的に行う地域の支えあいネットワークです。



<https://sites.google.com/view/tomonity/>

推進体制

上白根地区 支えあい連絡会

メッセージ

上白根地区支えあい連絡会は以下の目標に取り組みます。

「ともに声をかけ合い、ともに助け合い、ともに考え、ともに育ち、ともに生きる街」

これは、私たちが目指す、未来の街の姿です。そして、この想いを形にするための手段としての地域ネットワークこそが、『TOMONITY (トモニティ)』です。

『TOMONITY(トモニティ)』は、「ともに」と「コミュニティ(Community)」を組み合わせた造語。この街に暮らす誰もが、世代や国籍、障がいの有無に関わらず、互いに支え合い、共に成長していける。そんな温かい社会を、この街で実現したいという願いが込められています。

『TOMONITY(トモニティ)』は、人と人との繋がりを何よりも大切にしているネットワークです。

この上白根地区が、もっと安心で、もっと楽しく、もっと豊かになるために。ぜひ、『TOMONITY(トモニティ)』の活動にご協力ください。

そして、私たちと一緒に、この街の未来を「ともに」創っていきませんか？

本計画は、持続可能な開発目標(SDGs)の理念と目標を共有し、TOMONITYの活動を通じてSDGs達成に貢献します。



笑顔で支えあい、安心して暮らすことのできるまち今宿

年代の垣根を超えてみんながつながり、笑顔で声をかけ合い、お互いに見守り合う関係性を広めます。
地域の活動を次世代に繋げるために、多くの住民が参加し、役割を担う新たなしくみをつくりまします。

これまでの取組

第4期計画では、さまざまな取組が新しく始まりました

食材の提供など、地域の方々とご協力で運営しています。

宿題をしながら、地域の方と交流し、ホッとする時間を過ごしています。

買物をしながら、交流や見守りの場となっています。

にじいろキッチン (子ども食堂)

今宿小学校放課後自習室

移動販売

地域活動・行事・取組などの紹介

どんど焼き (1月)

盆踊り大会 (7月)

レクリエーション大会 (10月)

福祉のつどい (11月)

地域のみんなで 楽しむ行事

- さくらまつり (3月)
- 連合防災訓練 (6月)
- 演芸大会 (9月)
- 福祉講演会 (9月)
- 輪投げ大会 (2月)
- 他

推進体制

今宿地区地域支えあい連絡協議会

地区社会福祉協議会、町内会・自治会、民生委員・主任児童委員、スポーツ推進委員、青少年指導員、環境事業推進委員、家庭防災員、保健活動推進員、老人会、ボランティアグループ など

目標と主な取組

目標 A 子ども・高齢者の見守りネットワークづくり

- ▶ ご近所同士の見守り合いの推進と高齢者・要援護者へのサポート強化
- ▶ 小学生の登下校の見守り・声かけ活動の継続
- ▶ 昼食会や配食、サロン開催による高齢者の交流の充実
- ▶ 「チョットお手伝い」活動の継続
- ▶ 子ども食堂・放課後自習室の開催や多世代交流の充実



登下校の見守り

目標 B 安心して暮らすことのできるまち

- ▶ 「こまった時のあんしんカード」(携帯用)の配布継続
- ▶ 防災訓練やお散歩パトロールなど防災・防犯体制の強化
- ▶ 町内会への加入促進と地域活動の広報活動の充実 (回覧板・今宿地区だよりの活用)
- ▶ 移動販売の利便性向上と地域でのゆるやかな見守り



あんしんカード

目標 C 住民同士の交流促進

- ▶ 連合会行事、町内会自治会行事の企画と継続的な実施
- ▶ これまでの周知方法に加えて、SNS等を活用した幅広い世代への参加の促進
- ▶ スポットでの活動参加の推進 (得意なことを活かした、ちょこっと参加)
- ▶ 町内会自治会の役員・担い手の育成
- ▶ ジュニアボランティア・中学生ボランティア活動の継続・強化
- ▶ 老人会の活動やスポーツを通じた交流と健康増進
- ▶ 小中学校と連携した多世代交流



中学生ボランティア活動

目標 D 環境美化活動の推進

- ▶ ゴミ集積所の維持・管理 (ゴミ出しルールの徹底、見守り強化)
- ▶ まちの美化活動による防犯対策の推進
- ▶ 帷子川緑道や公園等の定期的な清掃活動による地域住民の交流促進と環境意識の向上



ジュニアボランティア清掃活動

第5期きらっと川井プラン

「みんなが、地元でつながり支えあう心豊かなまち川井」

豊かな自然の中で、子どもから高齢者、障害のあるなしにかかわらず、住民が地元でつながりを深め、みんなで支えあい、元気に安心して住み続けられるまちを目指します。

川井地区の課題

1. 災害時に生かせる日常の見守り活動の推進
2. 「高齢者福祉」から、「地域福祉」(「地元福祉」)への進化
(子どもから高齢者、障害のあるなしにかかわらず、住民が地元で支えあう)
 - (1) 子ども食堂、フードバンク等の支援
 - (2) 福祉施設との交流の強化
3. 連合会・地区社協の広報体制の確立

これまでの取組

- 「見える支えあい」の実現に向け、ほっこり活動の推進組織として、住民に最も身近な各町内会・自治会での「福祉部」の創設と、見守り体制の組織化を進めました。
- 健康寿命を延ばすとともに、住民同士がつながる取組として、ウォーキングやポッチャ大会・交流会などのスポーツイベント等の開催を通じて、新型コロナ禍から戻りつつある地域内の交流を進めました。

推進体制

1. 第5期きらっと川井プラン推進会議を充実強化します。
(連合会と地区社協の共催で、年4回開催します。)
2. 連合会・地区社協の共同広報体制を確立します。
3. 川井地域ケアプラザとの連携を強化します。

目標と主な取組

目標 A 地元で、見える支えあいをしよう

1. 災害時に生かせる、日常の見守り活動を進めます。
 - (1) 手助けが必要な人を対象にした、「ご近助ほっこり活動」を進めます。
 - (2) 地域住民を対象にした、効果的安否確認(災害時・日常)の制度の検討を行います。
2. サロン(居場所)活動やサークル活動を支援します。
 - (1) サロン活動やサークル活動を「住民の日常の支えあい」として位置付け、積極的に支援します。
 - (2) 川井地区内のサロン活動・サークル活動の実態調査を行います。
3. ちょこボラ活動を進めます。
 - (1) 活動件数の維持・向上と活動ボランティア数の増強を目指します。
 - (2) 「見守り」を意識した活動を進めます。



ちょこボラ(草取り)

目標 B 健康寿命を延ばそう

1. 健康維持・増進活動を進めます。
 - (1) 健康ウォーキングを年2回以上継続します。
 - (2) ウォーキングサークルの結成を支援します。
2. 認知症の理解・啓発活動の推進
 - (1) 川井地域ケアプラザの「チームオレンジ」を中心に、理解を広める活動を進めます。
 - (2) 各町内会・自治会の取組と連携します。



健康ウォーキング

目標 C 住民同士つながろう

1. 「高齢者福祉」から、「地域福祉」(「地元福祉」)へ向かって、住民同士つながろう
(子どもから高齢者、障害のあるなしにかかわらず、住民が地元で支え合う)
 - (1) 地域のつながりを広げるため、子ども食堂、フードバンク等の立ち上げを支援します。
 - ① 必要性の勉強会や見学会など、現状の調査からスタートさせ、着実に進めます。
 - (2) 福祉施設との交流を進めます。
 - ① 福祉施設との交流を進め、町内会ポッチャ福祉交流会を定着させます。
 - ② 福祉施設との、お祭り・防災訓練などでの交流を進めます。
2. 川井地区代表選抜の「ポッチャ大会」を行います。
3. 防災・被災対策を、連合会・地区社協が協働して進めます。



ポッチャ大会

出会い ふれあい 支え合い ～気軽に声をかけあい相談できるまち～

この計画は若葉台に関わる全ての人^{*}のためのものです。

^{*}乳幼児から高齢者まで幅広い世代の人、外国籍の人、障がい児・者、若葉台に通勤・通学する人等、様々な立場や背景のある人、だれでも



これまでの取組

- 「移動サロンほっこり」の展開により、参加者の異変に気づき、素早く情報をつなぐことができている。また地区内には、「移動サロンほっこり」に限らず、異変をキャッチする場が多様にある。
- 散歩中に挨拶を心がける、子どもたちが挨拶してくれる等、あいさつ運動は声かけのきっかけとなっている。
- ふれあい花壇を継続したことで、声をかけてくれる人、見て喜んでくれる人、人知れず水をあげてくれる人など、共感の輪が広がった。
- 地区社協だよりを隔月で発行した。地区社協のホームページ、Xで地域の情報を発信した。

目標と主な取組

目標 A お互いを気にかけてあう環境をつくる

- みんなであいさつ運動を継続し、充実させる
 - ▶ 登山のようにいつでもだれとでも
 - ▶ 名前を知らなくても顔見知り
 - ▶ 生活の中で自然に、肩肘はらずに
- みんなでちょっとだけ迷惑をかけあえる寛容な地域づくりをめざす
 - ▶ 「手伝って」「助けて」など言い合えるご近所づきあい
 - ▶ 日頃のちょっとした気づき、声かけから災害時の助け合いへ
 - ▶ 互いの違いを知り、理解し合うための機会づくり

「ふれあいコーナー」

(地域の中で障がい児・者の理解が深まることを目的に、若葉台文化祭の中で展示を実施)



目標 B 地域のだれもが気軽に参加できる場と機会がある

- 移動サロン「ほっこり」の開催を支え、身近な場所で参加できる機会をつくる
- 地域の活動の開催を支援し、様々な方が参加できる機会をつくる



多世代交流みんなあつまれ!!



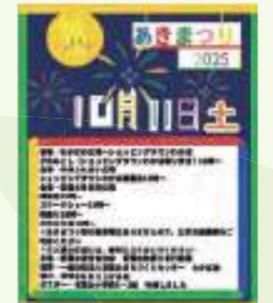
ふれあい花壇

目標 C 多様な住民から広く声を聞き、まちのみらいを考える

- 様々な住民の声を聞くために情報を収集する
- 企画段階から地域住民が参加し、意見を反映させながら活動する
- 意見が言えない、参加ができない住民の視点を大切に考え協議する



～若葉台のまちを考えるフォーラム～
若葉台でワクワクドキドキしよう!



地域のイベントポスターを
小学生が作成

目標 D 適切な方法で、必要な人に必要な情報を届ける

- 支援を必要としている人、支援をしたい人へ情報や取り組みへの思いを発信する
- 広報誌、自治会掲示板、ホームページなど、地域の多様な方法を活用して、様々な人へ情報を届けられるようにする



若葉台アプリ



若葉台なんでも相談

推進体制

若葉台地区社会福祉協議会…連合自治会、単位自治会、住宅管理組合、認定NPO法人若葉台、民生委員・児童委員、保健活動推進員、かがやきクラブ、友愛活動員、青少年指導員、保護司、PTA、ボランティアグループ、地区推進員、学校、幼稚園、保育園

メッセージ

あいさつで みんなつながる 若葉台



黄色と緑色の缶バッジ活動
支援の必要を表明する黄色い缶バッジ
支援できることを表明する緑色の缶バッジ
気軽に声をかけあえる環境づくりを推進

自治会単位で、近隣の皆さんの事をよく知り、
助け合って地域が
「住み良い街」「困りごとを気軽に相談できる街」
「お互いにゆるやかにささえあえる街」
になれるよう努めます。

これまでの取組

- 目標 A** 地域防災力の向上 笹野台地区で災害が発生した時「被災を最小限に」する防災・減災の仕組みや災害時への備えの充実
- 目標 B** 地域の見守り：見守りネットワークを作ろう 第4期の成果の輪をもっと広げ、支援を必要としている人を早く見つけ、ケアプラザや行政へつなげる

地域活動・行事・取組などの紹介

地区社協主催行事

- | | |
|---------------|---|
| 1. 笹野台昼食会 | 毎月 第1水曜日 |
| 2. お出かけ支援 | 毎日 高齢者・障がい者の移動支援 |
| 3. ちょっとしたお手伝い | 毎日 移動サービス、庭木の剪定など |
| 4. 子育てサロン | 毎月 第2水曜日・第4月曜日 |
| 5. カレーハウス笹野台 | 毎月 第4金曜日 |
| 6. 移動販売 | 毎週 木曜日・金曜日 民間業者による
移動販売 笹野台地域ケアプラザとの協働行事 |
| 7. お茶べり会 | 毎月 第3水曜日 |

目標と主な取組

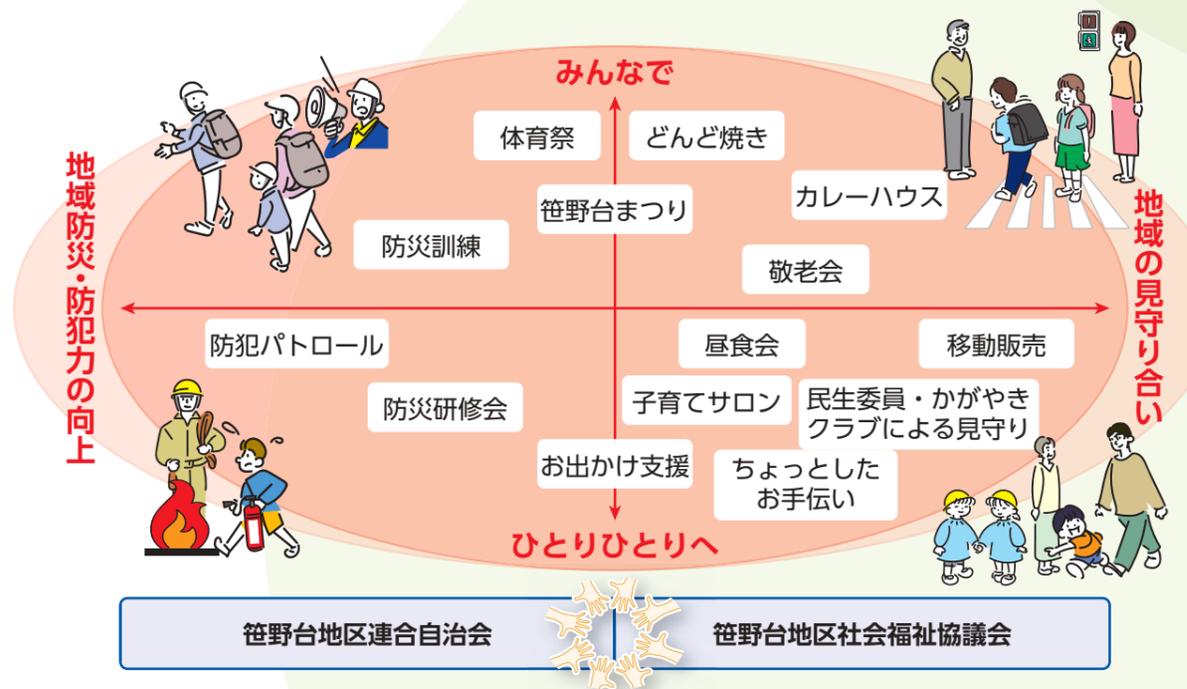
目標 A 地域防災力の向上

- テーマ：笹野台地区で災害が発生した時「被災を最小限に」する防災・減災の仕組みや災害時への備えの充実
- ▶ 各自治会の実情を調査して、対策の不備・改善点などを洗い出し、地区の防災・減災の充実を図る
 - ▶ 地域子どもたちといっしょに活動し、防災・減災意識の向上を図る

目標 B 地域の見守り：見守りネットワークを作ろう

- テーマ：支援を必要としている人を早く見つけ、ケアプラザや行政へつなげる
- ▶ 認知症サポーター養成講座などにより認知症の理解を深め、見守り意識の向上を図る
 - ▶ 見守りについて、地域子どもたちといっしょに考え活動する

「住み良い街」「困りごとを気軽に相談できる街」「お互いにゆるやかにささえあえる街」
方針：地域子どもたちといっしょに考え活動する



推進体制

笹野台地区ささえあい連絡会…連合自治会、地区社会福祉協議会、民生委員・児童委員協議会、かがやきクラブ笹野台支部、連合子供会、友愛活動推進員、青少年指導員連絡協議会、スポーツ推進委員連絡協議会、消防団、地域ケアプラザ

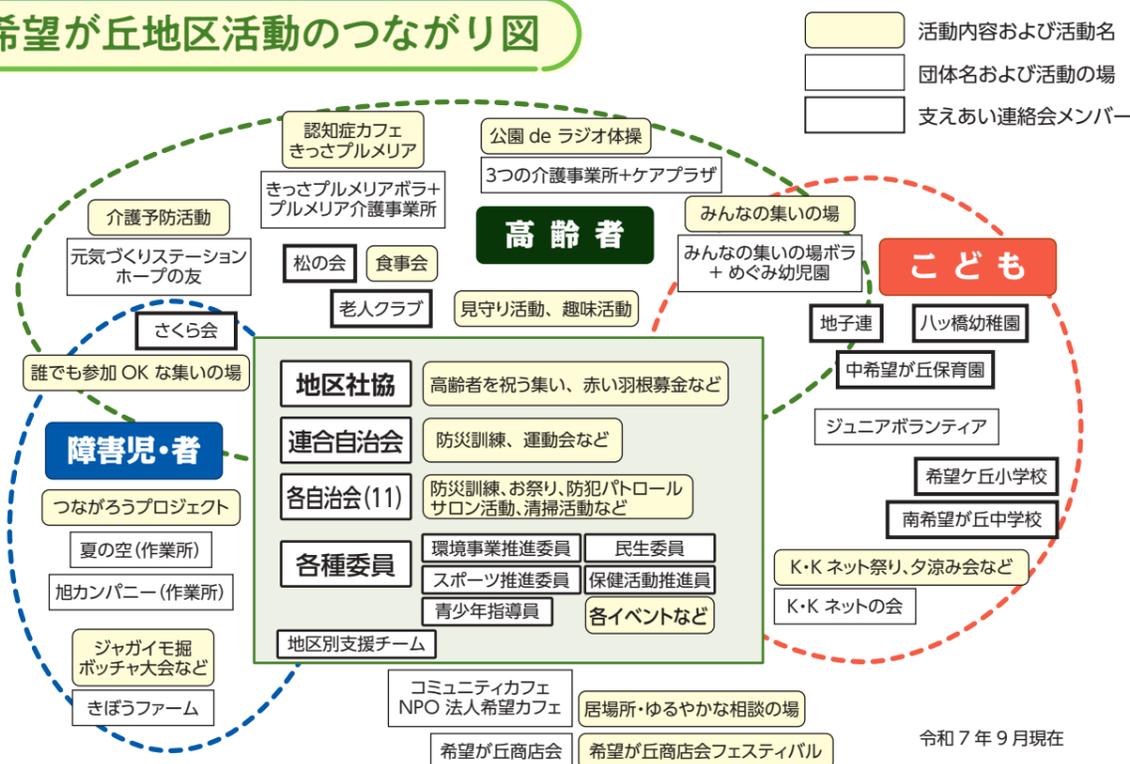
世代や環境を超えて コミュニケーションが自然と生まれるまち

地域住民が、いかなる時も世代や環境が違ってもお互いを理解し、コミュニケーションが自然と生まれることにより、つながりや助け合いのあるまちづくりを目指します。

これまでの取組

- 「相談しよう」チラシを作成し、店舗や作業所の協力を得て地区内で配架・配付したことで、ちょっとしたことでも相談できるとの理解が広まった。
- 支えあい連絡会で地域のこどもの現状を話し合った。

希望が丘地区活動のつながり図



推進体制

希望が丘地区支えあい連絡会…地区社会福祉協議会、自治会・町内会、民生委員児童委員協議会、子供会、老人クラブ、保健活動推進員、スポーツ推進委員、青少年指導員、環境事業推進委員、PTA、学校、幼稚園、保育園、福祉・保健施設、ボランティアグループ、地区別支援チーム（区役所、南希望が丘地域ケアプラザ、区社会福祉協議会）

目標と主な取組

目標 A 地域全員参加の支え合いのまちづくり

きらっとあさひプラン「地域福祉保健計画」を知る→具体的な活動→変化を感じる

- ▶ きらっとあさひプランの周知
- ▶ 支えあい連絡会運営

地域の中での情報交換と、団体(子育て、高齢者、自治会町内会等)どうしのつながりづくりの場を提供し、子育て世代などより多くの方が連絡会と連携できるよう進めていく。また、2年交替体制に伴う、事務引継を徹底する。

目標 B つながりのあるまちづくり

お互いがあいさつをし、地域の集まりで知り合いを増やし、誰もが交流できる機会をつくる

- ▶ 既存の活動の継続とさらなる広がり
保育園や幼稚園、学校等の協力により、こどもを核とした地域づくりを進める
- ▶ 地域での集まりでの多世代交流
- ▶ 身近なことから生まれるつながり



K.K. ネット 夕涼み会



高齢者を祝う集い

少人数や短い時間など、誰でも気軽に立ち寄れるゆるやかなサロン（地区センター・公園）を増やす

目標 C 助け合いのあるまちづくり

誰もが安心して暮らせるような助け合いのあるまちづくり、支援の輪を広げる

- ▶ 既存の活動の継続とさらなる周知
- ▶ ちょっとした困りごとを地域で解決
- ▶ 相談しやすい地域づくり

「そうだ相談しよう」チラシの配付や声掛けにより、困りごとなどの課題を吸い上げ、解決に向けて取り組む



目標 D 新しい仲間、新しい生活へのまちづくり

多様な人が一緒に、安心して暮らせる新しい生活

- ▶ 多様な人が住みやすいまちに
地域でのイベント・事業など様々な活動において、障害者施設との連携を進める
- ▶ 新しい人とのつながりやコミュニティづくり



赤い羽根街頭募金

みんなで築く生き生き活力あるまち

子どもからお年寄りまで、誰もが安心して、いつまでも暮らしたいまちを、地域のみんがが主役となって、自分たちの手で築いていきます。

これまでの取組

従来から各団体が推進している取組に加え、令和4年9月より（旧称）支えあい連絡会にまちづくりを具体的に推進する3つの部会を設置しました。第1部会（コミュニティ活動部会）、第2部会（防犯・防災活動部会）、第3部会（学校協働、まちおこし活動部会）の3部会活動が地域の中心的推進力となっています。

推進体制

希望が丘東地区まちづくりネットワーク
 連合自治会、地区社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会、
 学校・地域コーディネーター、かがやきクラブ（第三支部・第四支部）

目標と主な取組

目標 A だれもがつどいふれあえる機会を作り拡充します

- ▶ 様々な個性や世代の住民が参加活躍できる場づくり
焼き芋大会を定期的に開催します。開催にあたっては、大人とは異なる視点アイデアを持つ子どもの意志を尊重し、かがやきクラブ・子ども会の協力を得ます。
- ▶ だれもがつどえる身近な居場所を作り、地域コミュニティをさらに活性化
日常生活に役立つテーマで公開講座を開催し、講演終了後には参加者と講師で雑談の場を作ります。



焼き芋大会



夏まつり 中学生が大人と一緒に輪投げブースを運営

目標 B 顔の見える関係と見守り体制を作ります

- ▶ 災害時要援護者調査の実施を継続します。
自治会町内会ごとに「安全カード」を活用した安否確認体制、日常の見守り活動体制づくりを支援します。
- ▶ スクールゾーン対策協議会との連携を図ります。
スクールゾーン対策協議会での防犯、交通課題を地域の課題としてとらえ、地域の多面へのつながりを活かしながら解決していきます。



要援護者支援事業の説明会



愛犬と散歩をしながら地域の見守り

目標 C 将来の地域活動の担い手づくりと地域の活性化をはかるため学校との連携を強化します

- ▶ 地域への興味や理解を深めてもらう活動を展開します。
・希望が丘の時代推移を紹介する展示会を期中にわたりシリーズで企画
・希望が丘マルシェの企画
- ▶ 学校からの要望に地域として応えるとともに、SDGs に関連するミニイベントを多く開催し、生徒・児童の参加を促していきます。



目標 D 支援が必要な人に対する共助の取組みを推進します

- ▶ 乳幼児向けのサロンなど、子育ての孤立を抑制する取組みを推進します。
- ▶ 地域の活動を通じて得られた気づきや情報をもとに、障害のある方や日常生活に支援が必要な方をケアプラザと連携しながら、地域で支え合う取組みへと広がっていきます。
- ▶ 生活にお困りの方へ「くらし応援会と相談会」を継続的に開催します。



パパと一緒にリトミック



きぼうの手 草刈り

ご近所が仲良く声をかけ合い、安心して暮らせるまち

これまでの取組

- 多世代が気軽に立ち寄れる場所づくりを行っている「チームよろず場」が、地区内の多様な居場所を1枚にまとめた「希望が丘南地区居場所マップ」を作成した。近隣の小学校の町歩きや、新たな居場所の立ち上げに繋がっている。
- 「災害時みんなが生き残るために」をテーマとする「町の防災組織連絡会」を立ち上げた。研修会の実施や、オレンジリボンによる安否確認訓練などを行い、地域全体の防災意識の向上につながった。

推進体制

希望が丘南地区連合自治会、希望が丘南地区社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会、スポーツ推進委員連絡協議会、青少年指導員協議会、保健活動推進委員会、環境事業推進委員連絡協議会、子ども会育成連絡協議会、PTA、各種ボランティア団体

目標と主な取組

目標 A 子どもから高齢者まで気軽に立ち寄れる「場づくり」

- ▶ 世代を超えて交流が進む地域づくりの運営
- ▶ 既存の居場所を大切に応援する「希望が丘南地区居場所マップ」の周知
- ▶ 「ちょこっとベンチ（仮称）」の設置に向けて取り組む（買い物や散歩の途中で気軽に一休みできる場）



希望が丘南地区居場所マップ

目標 B 隣近所で声をかけ合える「ご近助」付き合い

- ▶ 向こう三軒両隣を基本とした顔の見える「ご近助」の関係づくり
- ▶ 個々人の必要に応じて声をかけあえる関係や、困りごとを把握する体制づくり
- ▶ ボランティア団体と民生委員の連携（移動販売、ちょこっと応援団、お元気会、児童見守り安全ボランティアなど）



移動販売



児童見守り安全ボランティア

目標 C 自ら進んで地域活動に参加したくなるきっかけづくり

- ▶ 誰でも気軽に参加できる体制づくり
- ▶ 特技や趣味、好きなことが活かせる機会づくり
- ▶ 各種ボランティア団体の活動の推進
- ▶ ボランティアネットの充実
- ▶ 地域活動の見える化（ふくし祭りでの情報コーナーの設置等）の継続



ふくし祭り情報コーナー

目標 D 災害時みんなが生き残るための体制づくり

- ▶ 平時からのネットワーク構築のため、町の防災組織連絡会の充実と地域防災拠点との連携
- ▶ 防災訓練（オレンジリボンによる安否確認訓練）の充実
- ▶ 一人も取りこぼしのない体制づくりのための災害時要援護者支援事業の継続
- ▶ 防災フェスタによる住民の意識向上



防災フェスタ



オレンジリボンによる安否確認訓練

誰もが安心して心豊かにくらせるまち

つねに「誰もが…」という視点を大事にできるまちにしていきたい。

目標と主な取組

目標 A 誰もが、ともに生きるまちづくり

- ▶ 関係する団体と連携を深め、支え合うつながりの輪を広げていきます。
- ▶ お祭りや運動会などの自治会行事や老人会、子ども会の活動などをさらに発展させ、世代を超えたふれあいや交流の場を充実していきます。



ふれあい福祉まつり

目標 B 地域で子育てを応援しよう

- ▶ 子どもたちが健やかに育つよう、さりげない見守りや情報の共有を大切にします。
- ▶ 子育ての不安や悩みに寄り添い、気軽に話せる「子育てサロン」を充実していきます。



子育てサロン
「竹の子クラ」



子育てサロン
「笑顔」

目標 C 高齢者がいきいきと暮らすまちづくり

- ▶ 高齢の方や一人暮らしの方に、見守りや、声かけ訪問活動などを進めていきます。
- ▶ それぞれの生き方が尊重され、安心して過ごせる居場所をつくります。



老人会（トランプ）



お茶のみサロン「元気」

目標 D 地域活動の輪を広げよう

- ▶ 幅広い世代に地域活動の輪を広げていくため、わかりやすく情報を発信します。
- ▶ 誰もが無理なく気軽に地域の活動に関われる雰囲気や仕組みをつくります。



地域防災拠点訓練

これまでの取組

コロナ禍が過ぎ、各自治会の活動・行事も再開され、敬老会・カラオケ・麻雀など高齢者の活動が活発に行われています。子育てサロン・お茶のみサロンにも、新規の参加者が増えています。地域行事に小中学生ボランティアが参加する機会も増えており、次世代の地域活動の担い手としての活躍が期待されています。

地域活動・行事・取組などの紹介

夏祭り、敬老会、大運動会、ふれあい福祉まつりなどの地域行事では、住民間の新たな交流とつながりが生まれています。ふれあい福祉まつりでは、令和6年度に能登半島震災復興支援の募金活動にも取り組みました。活動の様子は「さが丘社協だより」で紹介しています。また、安全・安心なまちづくりの一環として、地域防災拠点運営委員会を中心に防災訓練を行っているほか、「さが丘地区安全安心ニュース」を発行しています。



夏祭りの様子



推進体制

さが丘地区社会福祉協議会…自治会、民生委員児童委員協議会、保健活動推進員、青少年指導員、老人クラブ、子ども会

メッセージ

みんなが安心して心豊かに暮らせているか？「気づかれず」「見過ごされている」人はいないか？一人ひとり、温かく優しい目で周囲を見てみましょう。

誰もが主役で、一人ひとりが輝けるまち

これまでの取組

- 万騎が原フェスタ：地域の活動団体、学校、施設などが連携して開催。多様な参加者の交流の場となった。
- みんなでクリスマス会：地域の親子を対象に開催。多世代交流の場となった。
- 情報発信：地区社会福祉協議会の取組をホームページに掲載するなど、紙面だけでない多様な情報の発信に取り組んだ。

目標と主な取組

目標 A 地域のつながりづくりを進める

- ▶ 隣近所でのあいさつや声かけにより、世代を超えて、お互いに知り合う関係をつくる
- ▶ 日常的に必要な地域の行事を継続し、地域の関係づくりにつなげる
- ▶ 各団体が連携してイベントを開催し、住民同士のつながりをつくる



万騎が原フェスタ

目標 B 思いやりの心を育む地域をつくる

- ▶ 登下校時の見守りや、隣近所で日常の中でできる見守りの意識を広めていく
- ▶ 福祉施設等との連携を図り、活動への協力や地域の行事への参加を呼び掛けていく
- ▶ ジュニアボランティア体験事業や地域行事の手伝い体験、小学校の地域での学習の支援などにより、学齢期の担い手を育成していく
- ▶ チームオレンジを通じて、地域での認知症の理解や見守りの目を増やしていく

* 認知症の人や家族とともに地域住民や団体、企業、関係機関等が連携して進める「本人支援」の活動です。



認知症サポーター養成講座



ジュニアボランティア

目標 C 子どもから大人まで、誰もが参加・活躍できる場づくり

- ▶ 子育て世代が参加しやすいイベント実施による多世代交流の促進を図る
- ▶ 誰でも参加できる、小さな交流の場を増やす
- ▶ 好きなことや得意なこと、経験を活かせる活躍の場（ステージ）づくりと新たな担い手発掘
- ▶ ICTを活用しながら、情報発信を工夫し、様々な活動について広く周知していく



みんなでクリスマス会

目標 D 高齢者が健康で安心して暮らせるまちづくり

- ▶ ラジオ体操、ウォーキング、シニアスポーツ等を通じた健康づくりと仲間づくりをすすめていく
- ▶ 公園を会場とし、健康や介護予防に関するイベントを実施していく
- ▶ 老人クラブや地域の小グループによるサロン活動を増やしていく
- ▶ 詐欺被害防止など、防犯意識向上のための取組を実施していく



ウォーキング

目標 E まちぐるみでの防災・減災への意識向上の推進

- ▶ 地域防災拠点と単位自治会との連携をすすめ、在宅避難を中心とした防災に取り組んでいく
- ▶ 減災の意識を高める取組を実施していく
- ▶ 災害時要援護者への日常的な見守りに取り組んでいく



万騎が原小学校の拠点訓練

推進体制

万騎が原地区ふれあい福祉委員会

【統括管理】 連合自治会、単位自治会、地区社会福祉協議会

【実動組織】 民生委員児童委員協議会、保健活動推進員会、スポーツ推進委員連絡協議会、青少年指導員連絡協議会、連合子ども会、かがやきクラブ（老人クラブ）、その他保健福祉関係ボランティア活動団体

二俣川地区

みんなで住みやすい環境基盤を整え、地域の価値を維持・向上していこう！

住みやすい環境基盤を整えていくことが、自分たちの住むまちの価値を向上することになり、その価値を次の世代につなげていきたいことを標語とした。

二俣川ビジョン

みんなで住みやすい環境基盤を整え、地域の価値を維持・向上していこう！



A

安心して安全な環境を整える

B

楽しく生活できる環境を整える

C

子どもからお年寄りまで
過ごしやすい環境を整える

D

3本柱を支える地域役員の活動環境を整える



これまでの取組

第4期計画は、「相談しやすいまちづくり」を標語として、地域のコミュニティの維持・向上のため、諸活動を進めてきた。コロナ禍・二俣川小学校の改築工事など活動に制限を受ける条件の中、活動の継続が地域に住みやすい環境を整えることをあらためて確認した。反面大きな課題として、自治会・町内会加入率の低下、役員のなり手不足、現役員の高齢化とあらたな課題に直面した第4期計画でもあった。

地域活動・行事・取組などの紹介

安心して安全な環境を整えるための防災・防犯活動の実施。集える場の提供を目的とした夏祭り・健民祭・餅つき大会・地域カフェ・各種団体の活動等の実施。だれもが過ごしやすい環境を整えるための高齢者、障害者、子育て支援活動等を実施してきた。

目標と主な取組

私たちのホームページをぜひご覧ください。



目標 A 安心して安全な環境を整える

- ▶ 防災活動の展開：防災活動の基本である自助⇒共助⇒公助の仕組みに沿って、自助活動の啓蒙、隣近所の助け合い活動の促進⇒地域防災拠点の充実を展開していく。
- ▶ 防犯活動の展開：小学校の登下校時の見守り活動の実施、防犯キャンペーンの実施、防犯を啓発するのぼり旗の配布等地域の防犯意識の向上を図っていく。
- ▶ 地域防災警備班、防犯指導員との緊密な連携

目標 B 楽しく生活できる環境を整える

- ▶ 楽しく生活できる環境を実現するため連合・社協の三大大行事である、夏祭り、健民祭、餅つき大会を継続して実施していく。
- ▶ あさひスポーツ祭への参加を通して地域レクリエーション活動を実施していく。
- ▶ 地域カフェ活動を通して地域のコミュニケーションの充実を図っていく。
- ▶ 老人会、友愛会等各種団体活動を通して、コミュニケーションの充実を図っていく。
- ▶ 生活環境基盤の基本となる、環境事業推進活動を支援する。

目標 C 子どもからお年寄りまで過ごしやすい環境を整える

- ▶ 民生委員・児童委員の活動を基本とした、高齢者、障害者、子育て支援活動を支援していく。
- ▶ 民生委員・児童委員の日頃の活動に加えて、子育て支援としてピヨピヨクラブ、ひなたぼっこ、子ども食堂、ジュニアボランティア活動等を支援していく。
- ▶ 青少年の育成活動を支援する。
- ▶ 中途障害者支援のひまわり会の活動を支援していく。
- ▶ ひとり暮らし高齢者支援のはなみずきの会の活動を支援していく。

目標 D 地域役員の活動環境を整える

- 第4期の課題として顕在化した、自治会・町内会加入率の低下、役員のなり手不足、現役員の高齢化の対策として、
- ▶ 地域活動を見える化して理解を深めてもらう施策を実施する。
 - ▶ 役員の負担軽減を目的としたDX（デジタル化による役員活動の見える化）を実施する。

推進体制

二俣川地区連合・社会福祉協議会の組織を基軸として、諸活動を展開している。

メッセージ

地域活動の基本である、住みやすい環境基盤を行政とともに築き上げていくことが、地域の価値向上につながることを未来像として確認したい。

「住んで良かったと思える街ニュータウン」

－誰もがともに、自分らしく安心して暮らせるまち－

夏まつり、大運動会、福祉まつり、もちつき大会、敬老のつどい等の行事を通じた多世代のつながりを大切にしています。若い世代も巻き込みながら、幅広く顔の見える関係を築き、お互いを尊重し、気かけながら、自分らしくいきいきと暮らしていきけるまち、「ふるさと」と呼べるまちを目指します。



これまでの取組

- 高齢者をはじめ住民の外出機会を増やすため、移動スーパーやコンビニ誘致を進めた。
- 「県立よこはま看護専門学校」の学生に体験学習の機会（かがやき（老人）クラブとの交流、福祉まつりでの健康体操・指導など）を提供したことで、学生と住民との多世代交流及び相互理解が進んだ。
- 全世帯に震災時の迅速な安否確認の「黄色い旗」を配布し、町内会に「災害時ご近所集合場所」のプレートを設置した。2024年の防災訓練では、全町内会で黄色い旗の安否確認、ご近所集合場所への参集等を取り組み、災害発生時の避難行動の確認ができた。
- 連合町内会の専門部「子ども活動・行事支援部」で、子どもたちの活動を支援した。

目標と主な取組

目標 A 「見守り」外出機会を増やし、顔見知りを増やす

- ▶ 「災害時要援護者名簿」の100%掲載を目指し、見守りの充実方法の検討を行います。
- ▶ 既存の地域活動の活性化・組織拡大に向けた支援策を実施します。
- ▶ 常設サロン（蒔ぎ会、お茶べりサロンさんさん、サロン・あさひ、わいわいクラブ、しおんカフェ）をより充実します。
- ▶ コンビニを誘致し、地域住民の外出や買い物の機会を増やします。
- ▶ 高齢者等をはじめ住民の安全な外出について、周辺地区と協力して取り組みます。

目標 B 「担い手」「新たな人材の発掘」多世代の参加・活躍

- ▶ 行事開催に必要なボランティアの募集、既存のボランティア活動の担い手や人材などの確保への支援を行います。
- ▶ SNSなどを使い、若い世代をはじめ、多世代が参加しやすい仕組みを検討し、実施します。
- ▶ 大地震などの災害時に必要なボランティア確保の方法を検討します。
- ▶ 「ニュータウンだより」等を活用し、ボランティア活動の紹介に取り組みます。

目標 C 「広報」必要な情報への容易なアクセス

- ▶ 連合町内会と地区社会福祉協議会が協力して「ニュータウンだより」を発行します。
- ▶ 「連合町内会」「地区社会福祉協議会」のホームページを充実させ、地域の行事やボランティア活動の情報等を積極的に掲載し、地区の内外に発信します。

目標 D 「防災・防犯」安心して住み続けるために

- ▶ 「地域防災拠点」「連合防災部」「町内会」が連携し、大地震発生に備える支援に取り組みます。
- ▶ 自助（家屋の耐震・家具の転倒防止、食糧・簡易トイレ等の備蓄）を応援します。
- ▶ 共助（町内会による発災時の安否確認・避難生活の協力等）の充実をはかります。
- ▶ 「災害時要援護者・災害弱者」等への対応と支援を検討します。
- ▶ 二俣川ニュータウン地区の住民の防災・防犯意識の向上をすすめます。
- ▶ 「町内会」が、犯罪のないまちを目指して防犯灯・防犯カメラなどの設置に取り組みます。
- ▶ 二俣川ニュータウン駐在所と協力し、パトロール等の防犯活動の充実をはかります。

活動の紹介

● 「チョコレートしえんたい」活動

2007年第1期計画の事業として発足。65歳以上の要援護高齢者や障害者世帯を対象に民生委員・児童委員と連携し、庭木の手入れ（剪定・草刈り・芝刈り）・ごみ処理・家具の移動固定など、生活の困りごとをお手伝いする活動を行っています。多くの依頼があり、高齢化が進む二俣川ニュータウン地区にはなくてはならない活動となっています。

現在、サポーターを募集中です。



● 「黄色い旗」「災害時ご近所集合場所」の取組

2012年から第二町内会で、発災時の安否確認のため黄色い旗を各家庭で掲示する取組が始まり、その後、他町内会にも広がりました。2024年には、連合町内会の防災訓練として全町内会で、「黄色い旗」の掲示を実施しました。

また、町内会の班ごとに「災害時ご近所集合場所」のプレート掲示に取り組むなど、地区全体で日頃から災害時の備えをすすめています。

この防災訓練には、中沢小学校・旭中学校の児童・生徒も参加しています。



推進体制

二俣川ニュータウン地区福祉懇談会…連合町内会、地区社会福祉協議会、

民生委員児童委員協議会、保健活動推進委員会、かがやき（老人）クラブ連合会、青少年指導員連絡協議会、小・中学校PTA、子育てサロン、ボランティアグループ連絡会、地域防災拠点

こころの見えるまちづくり

- さまざまな世代が地域活動に参加するきっかけをつくる
- これまでの活動をよりよくして継続していく

これまでの取組

コロナ禍で途切れた活動やつながりが少なくなかったが、その中でも、実施方法を一部変更するなど、工夫をして続けることができた活動もあった。また、顔を合わせる機会が減ったことで、久しぶりに再会できた喜びは大きく、人と人とのつながりをより一層感じることができた。

目標と主な取組

目標 A 人と人とのつながりを大切に

- ▶ 様々な世代との交流を積極的に行う
- ▶ サロンやイベント等をさらによくして継続させていく
- ▶ 地域の活動を周知し、つながりのきっかけを作る
- ▶ 顔を合わせる機会を通じて、自然と声をかけあえる関係になる



三世代美サイクル



高齢者懇親会



目標 B 地域の未来を担う人材発掘・育成

- ▶ ジュニアボランティアなど、地域の活動者や住民とふれあうプログラムを取り入れることで、子どもたちへ「わがまち」の意識をはぐくむ
- ▶ 子育てサロンかみふうせん、三世代美サイクル等の若い住民層が参加しやすい行事で、子どもやその親世代が主体となれる時間を設け、地域への愛着を醸成していく
- ▶ イベント等を通じて地域の活動に関わるきっかけをつくり、未来を担う人材を発掘していく



ジュニア
ボランティア



つぶらの会



地域活動・行事・取組などの紹介

- つぶらの会
- 高齢者懇親会
- 三世代美サイクル
- かみふうせん
- 移動販売
- 地域広報誌(社協だより)の作成

推進体制

地区社会福祉協議会、自治会・町内会、民生委員児童委員協議会、保健活動推進員、老人クラブ、友愛活動推進員、青少年指導員、ボランティアグループ、保護司、スポーツ推進委員

旭南部地区

目指す
まちの姿

みんなが安心して暮らせるまち
みんなですべて生きてゆくまちを
みんなで作ってゆこう！

- 「災害時家庭内災害廃棄物・片付けごみ一時仮置場」の周知・清掃(手入れ)
- 住宅用火災警報器・住宅用消火器・感震ブレーカーの新設や交換促進
- 防災、防犯の促進
- まちの美化(道路清掃、ごみ出しルール・マナー徹底)の促進
- レクリエーション、夏祭り、ハロウィン、どんど焼き等の実施

これまでの取組

第4期地区別計画は、「私たちが描く地区の未来図・目標・主な取組」の方向性は良かったと思います。しかし、表現が分かりにくかったため正しく理解している人が少なく、みんなに浸透しなかった。これが一番の反省であり課題であると捉えております。

みんなの主な取組

A みんなが安心して暮らせるまち
ともに生きてゆくまちをつくってゆこう！

- ▶ 防災・防犯促進
みんなで、「安心して暮らせるまち」のために防災・防犯対策をすすめてゆくことから始める
- ▶ 乳幼児・高齢者・困りごとを抱えた人への対策
みんなで、子育て地域サロン「MaMa♡kids」、お茶のみ地域サロン「ほっと」等の活動をすすめてゆく

B みんなが行きたくなる行事を企画立案し
「賑わいのあるまちづくり」をすすめてゆこう！

- ▶ 各種団体行事(みんなの行事)
みんなが行きたくなる行事を、連合自治会が情報発信基地となり周知し、「賑わいのあるまちづくり」の輪を広げてゆく
- ▶ まちの美化
みんなで、道路や公園などまちをきれいにし、心も気持ちも明るくなれるようにしてゆく

C みんながあいさつ・声かけが自然にでき
友だちも仲間も増やしてゆこう！

- ▶ あいさつ・声かけ運動
みんなが、あいさつ・声かけを自然にできるようになることで、心が通い合い、友だちができ、仲間が増え、「顔の見える関係」が深くなり、いつまでも暮らしていきたいまちにつながるきっかけ作りをすすめてゆく

D みんなが私を見てくれている
見守ってくれていることを知ってもらう
だから、なんでも相談しやすい雰囲気づくりを
作ってゆこう！

- ▶ 見守りで安心を
みんながみんなを見守ってくれているという安心感が強まり、何か悩みや相談ができ、より良い雰囲気づくりを進めてゆくために、児童の登下校を見守る「学援隊・見守り隊」、災害時要援護者の見守り、防犯パトロール等を行う
- ▶ 障がいのある方たちとともに
みんなが、障がいのある方への理解を深め、思いやりをもった接し方をしてゆく



ハートフルハロウィン



夏祭り(スマイル)



学援隊・見守り隊

推進体制

さまざまな団体が、みんなを応援します。

さまざまな団体・施設
地区社会福祉協議会、連合自治会、各自治会、民生委員・児童委員、老人クラブ、保健活動推進員、青少年指導員、スポーツ推進委員、環境事業推進委員、消防団、家庭防災員、防犯指導員、福祉施設、学校、万騎が原地域ケアプラザ等

みんなへの
メッセージ

地域のみんな一人ひとりが主役です!!

みなさんのご理解ご協力なくして、何も進めることができません😊

元気ある左近山を未来につなごう

左近山連合自治会 結成50周年記念スローガン
(左近山小学校2018年度6年1組 作成)

これまでの取組

- 「子どもとのつながり」
小学校・中学校の「総合学習」などで、子どもと地域がつながるための取組が実施され、地域との協力体制ができている。
- 「互いを理解し合うための交流」
地域住民と特別支援学校などとの交流が行われることにより、互いに理解し合える関係づくりが進んでいる。
- 「地域でつながり見守りあうきっかけづくり」
ほっこりカフェがはじまり、気になる人の居場所や受け皿、見守りにつながる場となっている。
- 「多世代のつながり」
連合自治会主催の団地祭や様々なテーマの地域イベントを開催することで、幅広い世代の住民が集まり、多世代交流が進んでいる。

目標と主な取組

目標 A 大人になって戻りたいと思うふるさとづくり

- ▶ 学校や地域の居場所、集いの場を通じ、子どもと様々な世代が関わる場面を増やす
- ▶ 子どもたちが自ら考え地域で活躍できる環境をつくる
- ▶ 子どもたちの意見を聞く機会をつくる



ジュニアボランティア
小学校5・6年生の有志がボランティア団体と交流をしました



左近山スタンプラリー
支えあいネットワーク主催の楽しい地域交流イベント！
左近山をぐるっと一周

地域で
子どもを
育てよう

目標 B 一人ひとりを理解し寄り添えるまち

一緒に過ごす時間から
互いの理解を深めよう

- ▶ 誰も(孤立しがちな人、認知症、障がい児者、子育て世帯、外国にルーツのある人等)が参加でき、ホッとできるような居場所をつくる
- ▶ 一人ひとりが接点を持ち、理解し合えるような機会、関係をつくる
- ▶ 障がいがあっても、地域で活躍でき得意を活かせる場面をつくる
- ▶ 災害時を見据え、障がいや認知症等の理解啓発を進め、支え合える仕組みをつくっていく



認知症サポーター養成講座
地域の方の認知症への理解を深める
機会として、ほっと*さこんやまで
年一回開催しています

左近山特別支援学校と
地域サークルとの交流
地域の皆さんとふれあうことで
協同の大切さを学んでいます



目標 C 地域住民自らが見守りの意識を持つまち

となり近所で
気にかけておおう

- ▶ 地域住民に日常生活の中で見守りの意識を持ってもらう
- ▶ 近所付き合いの少ない人とつながるきっかけをつくる
- ▶ 見守りに関する様々な活動がつながり、見守りを強化する



ほっこりカフェ
だれもが気軽に立ち寄り、ほっこりする憩いの場です



目標 D 地域活動に楽しく参加しやすいまち

自分のペースで
参加してみよう

- ▶ できる範囲で気軽に参加できるきっかけをつくる
- ▶ 住民が声をあげ、参加しやすい活動をつくる仕組みを検討する
- ▶ 地域を好きになってもらうための情報発信を強化する
- ▶ 自治会活動の目的・内容のPRにより加入を促進する



左近山のお祭り
団地祭をはじめ、各自治会の
お祭りが盛んです



商店街イベント
毎月開催している商店街イベントを
多世代の活躍で盛り上げています！

推進体制

左近山地区地域支えあいネットワーク

左近山連合自治会、1街区自治会、2街区自治会、小高団地自治会、あさひ自治会、7・8・9街区自治会、市沢団地自治会、市沢団地住宅地区自治会、*左近山地区社会福祉協議会、*左近山老人クラブ連合会、*民生委員・児童委員、*保健活動推進員、*青少年指導員、スポーツ推進委員、左近山団地管理組合協議会、左近山小学校、左近山中学校、左近山特別支援学校、PTA、左近山保育園、*学校・地域コーディネーター、左近山中央診療所、日向台病院、左近山商店連合会、空とぶくじら社、ハートケア左近山、横浜市スポーツ協会、UR都市機構、*地域有志 (*は運営委員)

全世代の住民が生き活きと交流する町 市沢

こどもから高齢者まで、市沢にお住いのみなさんが
みんなで支えあい、安心して生き活きと暮らせる町をつくりま

これまでの取組

- サークル（ゴルフ・ダーツ）の新規立ち上げ、及び運営
- 市沢地区のホームページ作成、公開、及び積極的な情報公開
- 地域食堂『市沢ほっこり食堂』の開設
- 『キャッツ ハンズ クラブ』やサロン活動を通じた見守り
⇒ 日常生活での「ちょっとした困りごと」を住民間のお互い様の
関係によって助け合い、解決していくボランティア団体



地区社協だより



新たに立ち上げたサークル



市沢ほっこり食堂



市沢地区地域支えあいネットワークのホームページ開設

イベントカレンダーや地区社協だよりを
掲載しています。
是非ご覧ください。



推進体制

市沢地区支えあいネットワーク…市沢地区連合町内会、市沢町下町内会・市沢上町内会・市沢中町内会・市沢新中町内会・県営市沢団地自治会・市沢町南自治会、スポーツ推進委員、青少年指導員、環境事業推進委員、保健活動推進員、市沢小学校地域防災拠点運営委員会、交通指導員、市沢よこびの会、市沢地区社会福祉協議会、市沢地区民生委員児童委員協議会、旭かがやきクラブ市沢支部、市沢小学校放課後キッズクラブ、市沢子ども会、キャッツ ハンズ クラブ、学校・地域コーディネーター、空とぶくじら社

目標と主な取組

共に目指す住みやすい町 市沢

共通する 考え方

- ゆるやかな見守りを推進する。
- 住民一人ひとりが地域活動に参加できるような企画創りを進める。
- 地域活動の世代交代を進める。

目標 A 小規模で計画的な交流企画を創り、人々の交流を活発にする

- ▶ スポーツ・ゲーム・カラオケ、料理や手芸など、趣味を通じた集いの場を創り、様々な世代や世帯の日常的な交流の場を拡げる。
- ▶ グループ活動の立ち上げ支援を進める。



地域サロン「和&輪」

目標 B 情報が必要な人に迅速に伝わるよう伝達ルートが多様にし、住民同士の相互コミュニケーションを図る

- ▶ ホームページの周知、ホームページに掲載する情報を充実させる。
- ▶ 住民同士のコミュニケーションを図るツールとして、SNSの活用を検討する。住民から出た意見を地域の行事・活動に反映させる。
- ▶ 町内会・自治会会員以外にも情報が伝わるように、掲示板を活用する。



掲示板



目標 C 高齢者、障害者、子育て世代等への見守り体制を整える

- ▶ 『キャッツ ハンズ クラブ』の活動が発展するように支援する。
- ▶ こどもから高齢者まで、孤食等の課題をキャッチして繋げる場として、地域食堂『市沢ほっこり食堂』を維持・発展させる。
- ▶ 交流の場としてのサロン活動を維持・発展させる。



『キャッツ ハンズ クラブ』パンフレット

1 推進

1 基本的な考え方

きらっとあさひプランは区民一人ひとりや地域組織、関係機関、支援機関（区役所・区社協・地域ケアプラザ）などの多様な主体が取り組む計画であり、主体ごとに様々な取組が行われています。

計画を推進していくためには、目標に対する取組状況や課題を定期的に共有し、現状に対する共通認識を得ることが重要です。

2 推進体制

● 区全域計画

区全域計画では、区役所・区社協・地域ケアプラザが事務局として、計画全体の策定・推進にかかる進行管理や区域での課題の共有などを行います。

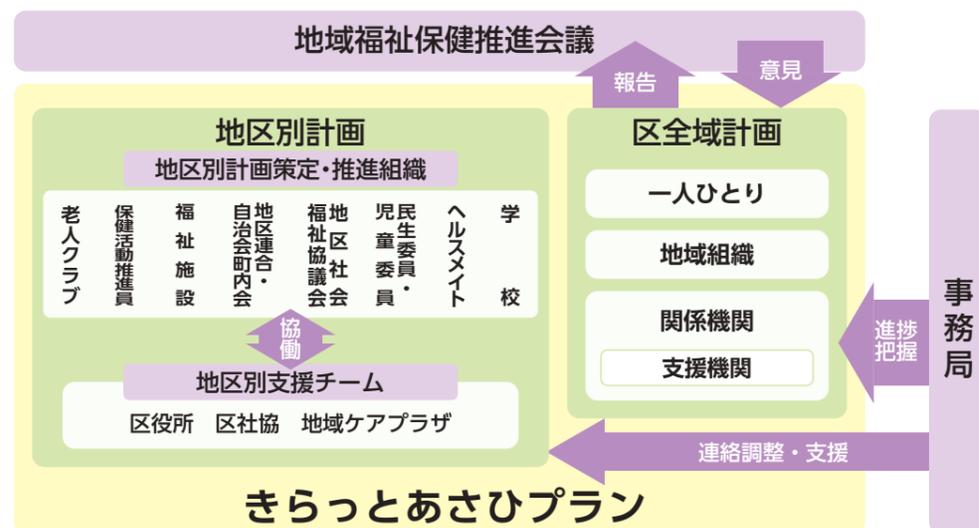
福祉保健活動団体の代表者及び学識者などで構成される地域福祉保健推進会議に計画の推進状況を報告し、いただいたご意見や協議結果などをその後の方向性や取組などに反映させます。

● 地区別計画

地区別計画では、地区連合・自治会町内会や地区社会福祉協議会といった地域組織、学校や福祉施設といった関係機関などが、計画推進の主体（地区別計画策定・推進組織）となります。その構成員は地区によって異なります。

地区の「目指すまちの姿」の実現や目標達成に向けて、推進状況の把握、課題の共有や取組の検討などを行います。（詳細は、24 ページ「地区ごとの取組と話し合い」を参照）

図12 きらっとあさひプランの推進体制



2 推進状況の確認

1 区全域計画の中間評価

区全域計画は、支援機関の取組状況について、毎年度振り返りを行います。

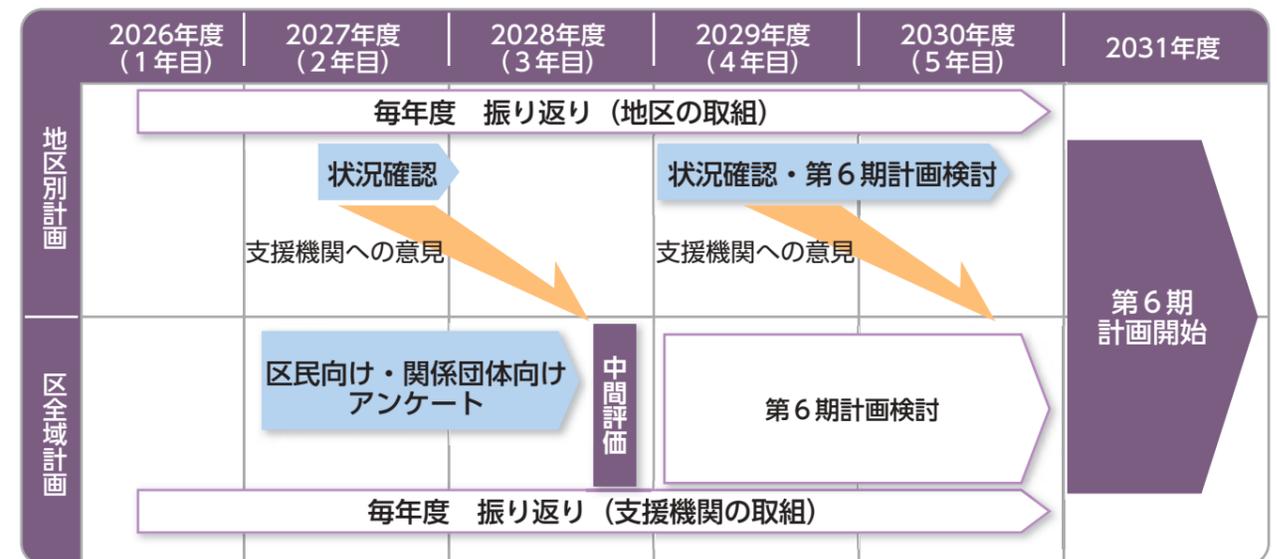
第5期計画2年目では、推進状況に関するアンケート調査を行います。3年目では、アンケート調査の結果を踏まえ、計画の推進状況に関する中間評価を行います。

2 地区別計画の状況確認

地区別計画は、地域と地区別支援チームが、各地区での取組について地区別計画推進会議などで毎年振り返り、次年度の取組の方向性などを確認します。

また、第5期計画2年目と4年目には計画の取組状況について確認し、今後の計画推進の方向性の確認や見直しを行うとともに、次期地区別計画の検討に活用します。その際、支援機関に対するご意見を頂戴し、区全域計画の中間評価、次期計画の策定に反映します。

図13 第5期計画期間スケジュール



一步、一步、
取組の方向性を
確認しながら、
前に進んでいこう！

1 第5期計画の策定経過

年度	月	区全域計画	地区別計画	
2024年度	4			
	5	第1回地域福祉保健推進会議（5月24日）		
	6	第1回策定検討部会（6月28日）		
	7	関係団体ヒアリング 対象：11団体（6月～8月）		
	8			
	9	骨子案検討	第4期 地区別計画 振り返り	
	10			第2回策定検討部会（10月17日）
	11			第3回策定検討部会（11月21日） ジュニアボランティアアンケート
	12			
	1			
	2	第2回地域福祉保健推進会議（2月27日）		
	3	骨子案確定		
2025年度	4	素案検討	第5期 地区別計画 策定	
	5			第4回策定検討部会（5月23日）
	6			
	7			第5回策定検討部会（7月3日）
	8	第1回地域福祉保健推進会議（8月7日） 素案確定		
	9	区民意見募集 （9月11日～10月19日）		
	10			
	11	第2回地域福祉保健推進会議（11月20日）		
	12	原案検討		
	1		原案確定	
2				
3	第5期きらっとあさひプラン 公表			

2 地域福祉保健推進会議及び策定検討部会委員名簿

※退任されている方は当時の所属を記載するとともに、お写真を別途撮影させていただきました。

地域福祉保健推進会議



分かりやすい自分事の計画になるよう、様々な視点から意見を出し合いました。推進に向け、思い入れのある計画になりました。

五十音順・敬称略

	氏名	所属
1	岡田 孝弘	旭区医師会
2	洪 正順	旭ケアマネット
3	齊藤 由紀子	旭区保健活動推進委員会
4	酒井 むつ子	旭区社会福祉協議会ボランティア分科会
5	渋谷 八郎	旭区連合自治会町内会連絡協議会
6	白鳥 基裕	旭区地域自立支援協議会
7	鈴木 敦子	旭区民生委員児童委員協議会
8	中村 廣子	旭区地域子育て支援拠点 ひなたぼっこ
9	中村 美安子	神奈川県立保健福祉大学

	氏名	所属
10	西山 宏二郎	旭区社会福祉協議会 施設分科会
11	林 重克	旭区連合自治会町内会連絡協議会
12	林 正男	旭区障害児者団体連絡会
13	細川 佳宏	旭区訪問介護事業所連絡会
14	水谷 三枝子	旭区保健活動推進委員会
15	峰松 雅子	旭区社会福祉協議会
16	山本 一郎	社会福祉法人大樹
17	渡邊 多喜男	旭区社会福祉協議会
18	和田 栄一	旭区老人クラブ連合会

【以上計18名】

策定検討部会



異なる地区・異なる立場から話し合うことで、様々な意見に触れることができました。自分達の活動を振り返って実情に即した計画内容になるように意見を出し合いました。

五十音順・敬称略

	氏名	所属
1	飯塚 ひろみ	旭北地区社会福祉協議会
2	小野 聡	旭区地域自立支援協議会精神連絡会
3	清宮 智美	旭ケアマネット
4	五味 真紀	NPO 法人ハートフル・ポート
5	鈴木 載代	上白根地区民生委員児童委員協議会
6	鈴木 洋光	相鉄ホールディングス株式会社
7	土屋 佳世	二俣川ニュータウン地区民生委員児童委員協議会
8	永井 正彦	希望が丘東地区連合自治会

	氏名	所属
9	中村 美安子	神奈川県立保健福祉大学
10	新倉 朋矢	旭区地域自立支援協議会
11	二ノ宮 哲夫	旭区老人クラブ連合会
12	早間 文穂	神奈川病院 医療相談室
13	水谷 三枝子	旭区保健活動推進委員会
14	山地 将人	独立行政法人都市再生機構
15	和田 孝	旭区老人クラブ連合会

【以上計15名】

3 いただいたご意見

第5期計画策定にあたり、みなさんから多くのご意見をいただきました。



関係団体ヒアリング

●ヒアリング対象団体

地域活動者・団体 ひまわりの会（認知症啓発）、親と子のつどいの広場、みなまきラボ、旭日本語ボランティア、あさひみらい塾卒業生

関係施設・機関 保育園、旭区地域子育て支援拠点 ひなたぼっこ（子育てサロン連絡会事務局）、放課後児童クラブ、よこはま西部ユースプラザ

関係企業 2社（移動販売実施事業者など）

●ヒアリング内容

- ①日々の活動の中で課題に感じていること
- ②今後どのような取組を継続していくか
- ③支援機関（区役所・区社協・地域ケアプラザ）に対するご意見
- ④旭区をどのような地域にしていきたいか

ジュニアボランティアアンケート

ジュニアボランティア体験事業に参加した旭区内の小学5・6年生 154名から、「旭区がどんなまちになってほしいか」などを教えてもらいました。



詳細はこちら

区民意見募集

●実施期間

2025年9月11日(木)から10月19日(日)まで

●質問内容

- ①旭区や自分の住むまちがどのようなまちになってほしいですか。
- ②そのために、ご自分(または所属の団体・組織)でどのようなことができそうですか。
- ③計画全体についてのご意見があれば回答をお願いします。

●回答者数

のべ171人



詳細はこちら

お寄せいただいたご意見

困った時に相談する人が身近にいるまちになってほしい

笑顔やあいさつがたくさんのもち!

困ったことがあるときは、問題の大きさに関わらず、周囲に相談したり、頼ったりできる場所があるとよいと思います。

子育てしやすい、子育てしたいと思えるまちになってほしい

みんながみんなを大切にしている町

みんなで楽しくらせるまち みんな仲がいい 笑顔いっぱいのもち

知らない者同士でも笑顔であいさつできる 余裕のあるまち

子供が安心して過ごせるまちになってほしい。大人も不公平と感ずることなく過ごせるまちになってほしい

高齢者、障害者に優しく安全に楽しく暮らせるまちにしたい。

孤独を感じない地域になってほしい。

障害を持っている人が一人暮らしを始めて困らない街

特に高齢化が進む中で、今後の発展や持続可能なまちづくりを伝えてほしい

地域ケアプラザでいろんなことを企画してくれているけれど、知らない人が多い。自治会や老人クラブなどの活動をしている人を通してもっと宣伝できるといいと思う。

私たち一人ひとりにできることが書いてあることで、自分もまちの担い手であり、できることがあると感ずることができました。

旭区は高齢者が多いので、高齢者の計画も多いことかと思いますが、子育て世帯が増えると活気付くと思うので、その世代にもアピールできればいいと思います。

どの場所へ行っても、コミュニケーションを大切にしたい。

企業と地域の連携マッチングを強化する。

旭区は高齢者が多いので、高齢者の計画も多いことかと思いますが、子育て世帯が増えると活気付くと思うので、その世代にもアピールできればいいと思います。

地域の人達が楽しめるイベントがたくさんあると良い

地域のイベントに積極的に参加し地域活性化に寄与したい

地域交流の場を作ってもらえると、私みたいなまだ横浜市に来て浅い人も旭区を身近に感じられます。

異変に気がついたときのつなぎ先が周知されていないのが課題かも

防犯パトロールと健康ウォーキングを一緒に出来たらよいです

地域における介護予防活動の拡大の推進が必要。

沢山のご意見をお寄せいただきありがとうございました!

4 福祉教材

横浜市の小中学校では福祉をテーマにした授業が行われています。授業を通して、子どもたちに地域福祉保健に興味をもってもらえるよう、地域福祉保健計画に関する資料を作成しました。
(資料内容は71・72ページへ)



詳細はこちら

5 用語集

計画冊子内に出てきた用語の解説は、ホームページに掲載しています。ご確認ください。



詳細はこちら

6 区域データ

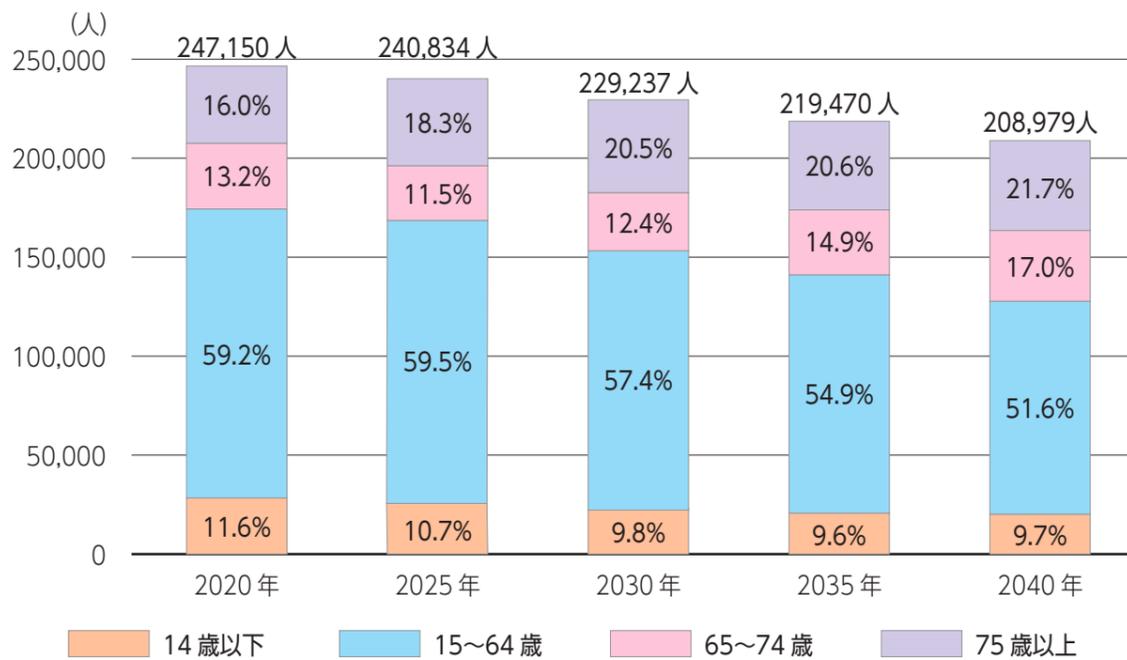
旭区の人口に関する基礎データは以下の通りです。詳細なデータをホームページに掲載しています。



そのほかのデータについてはこちら

将来推計人口

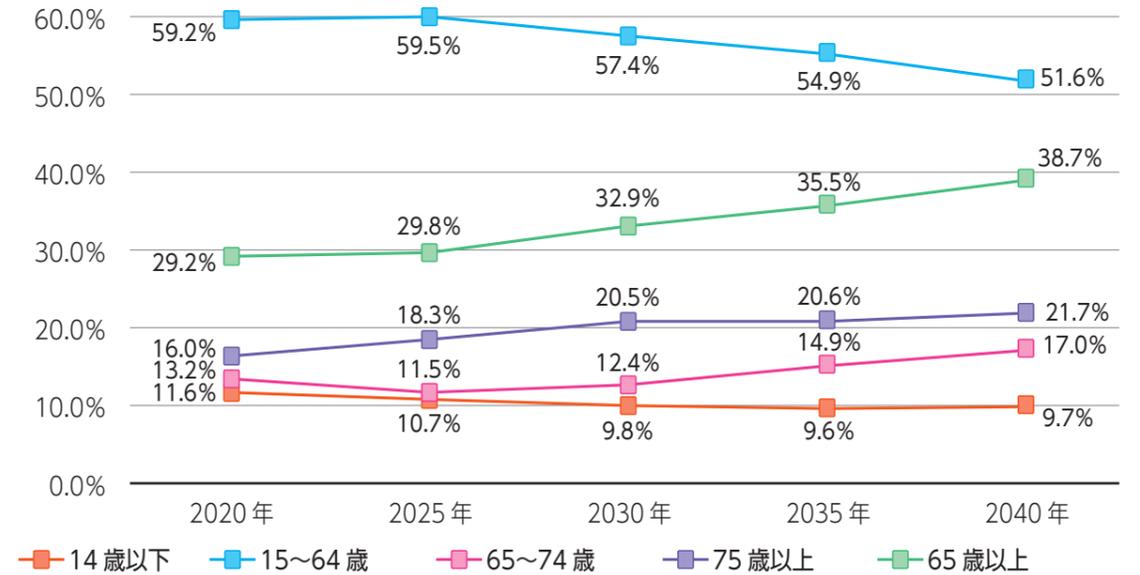
旭区の人口は約24万人(2025年時点)で、今後はゆるやかに減少していくことが見込まれます。



※出典 横浜市日常生活圏域等別データ
※小数点第2位を四捨五入した数値のため、合計が一致しないことがあります。

人口構成比の将来推計

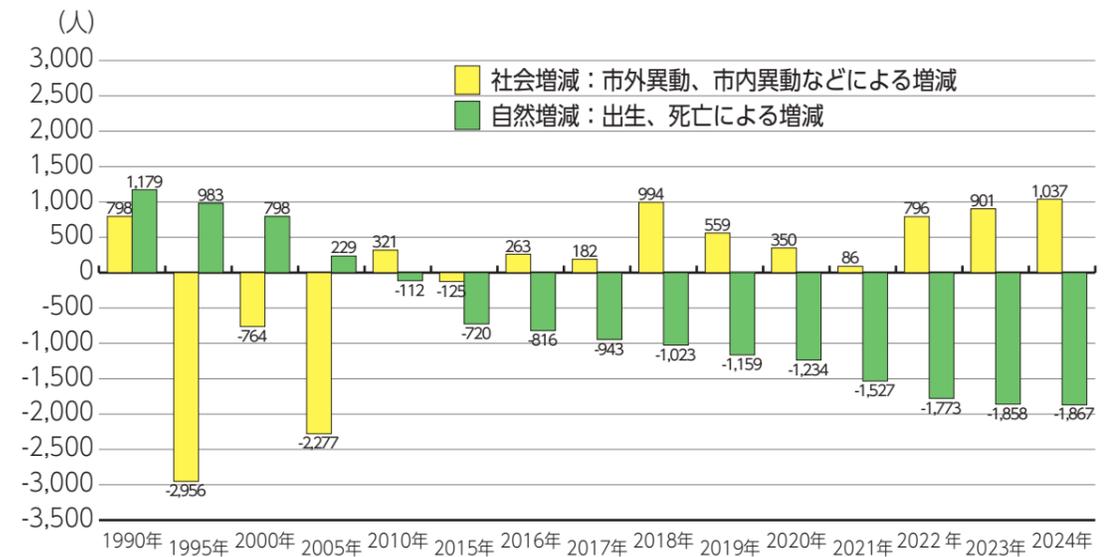
14歳以下及び15~64歳の人口が占める割合は減少、65~74歳及び75歳以上の人口が占める割合は増加することが見込まれます。



※出典 横浜市日常生活圏域等別データ
※小数点第2位を四捨五入した数値のため、合計が一致しないことがあります。

社会増・自然減

自然減が微増していますが、2021年からは社会増が増加傾向にあり、旭区の人口減少が緩やかな要因となっています。



※出典 データでみるあさひ 2025

最新データはこちら



みんなで地域を みてみよう!

ひと たいせつ あか としよ
 人とのつながりを大切にして、赤ちゃんからお年寄り、
 しょうがい ひと がいこく ひと
 障害のある人、外国の人みんなが暮らしやすい地域を
 めざ
 目指しているんだ。
 ちいき なか ひと す
 地域の中にはどんな人が住んでいるのかな？
 みんなの 住んでいる ちいき かつどう
 みんなの住んでいる地域にはどんな活動があるのかな？



地域をくわしく
 見てみると
 いろんな人が
 住んでいるね。

まちの目標 地域で支えあい 安心して自分らしく暮らせるまち 旭区をつくらう



帰りが
 わからない
 どうしよう?

だれかの役に
 立つといいネ

おはよう
 ございます!

気をつけて

困ったわ

ここに来ると
 みんなに会えて
 うれしいわ

なんていったの?

自分たちに
 できることって
 なんだろう?

記載内容の詳細はこちら



地域ケアプラザ
紹介



福祉教材



ジュニアボランティア
アンケート



地区別データ



区民意見募集



第5期
きらっとあさひプラン



表紙・裏表紙写真の紹介



地域福祉保健推進会議



地域で活動する
食生活等改善推進員
(ヘルスメイト)



不動丸ファーム



地域の防災訓練



夏祭り



わたりどりこども食堂



ジュニアボランティアによる
募金活動



街ぐるみ健康づくり教室



左近山団地
(旭区フォトコンテスト2022 旭区長賞)



地区の話し合い



問い合わせ

横浜市旭区役所 福祉保健課

〒241-0022 横浜市旭区鶴ヶ峰一丁目4番地12 TEL: 045-954-6143 FAX: 045-953-7713

社会福祉法人 横浜市旭区社会福祉協議会

〒241-0022 横浜市旭区鶴ヶ峰1-6-35 TEL: 045-392-1123 FAX: 045-392-0222